



母校中庭のソメイヨシノ 1994年高校卒業生による記念植樹

No.44

本郷学園同窓会

銀友

～総会のお知らせ～

日時 2015年6月20日（土）15：00より

場所 本郷学園1号館2階大会議室

学園より教育振興資金へのご寄付のお願い

本郷学園同窓会の皆様には、日頃学園をご支援いただき心から感謝いたします。お蔭様で中学、高校とも、外部の皆様方から教育内容の充実した学校として年々、より高い評価を戴いております。

今後とも、建学以来の教育理念に則って社会有為の人材を育てるべく、学園あげて取り組む所存でございますので、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

学校の教育内容充実、施設整備などの用途を目的に寄付金を在校生の保護者、卒業生の皆様ほか個人、法人を問わず幅広く受付しておりますので、ご案内申し上げます。学校法人への寄付金は非課税扱いになっております。趣旨にご賛同いただきましたうえでご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(なお、本学園では従来から入学に際し保護者の皆様へのご寄付のお願いは特に致しておりません。)

●お申し込み方法

- ①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。

学校法人 本郷学園

〒170-0003 豊島区駒込4-11-1

電話 03-3917-1456

ファックス 03-3917-0007 担当 石田(事務長)

- ②申込書に所定事項をご記入の上、事務所へご提出ください。

- ③指定の銀行振込口座にご入金ください。

- ④入金確認後、「振込金受領書」並びに

「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)を郵送いたします。

●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として確定申告により所得税から控除されます。

なお、寄付金控除額は控除対象団体等への年間支払い寄付金の総額(年間総所得の40%以内)から2千円を差し引いた額になります。

- p2 本郷学園同窓会 会長ごあいさつ
1956年〓昭和31年卒業 南谷 修(高校8回生)
- p3 学校法人 本郷学園理事長ごあいさつ
松平 頼武
- p4 投稿
● 本郷中学から建築家へ
1945年〓昭和20年卒業 今里 隆 (中学18回生)
● 私の生涯と音楽
1945年〓昭和20年卒業 志田 芳久(中学18回生)
● 我がミュージシャン人生、全ては本郷から
1982年〓昭和57年卒業
ふじい ヨーイチ(藤井 陽二(高校34回生))
- p18 「本郷の先輩たち」
- p21 同期の輪
「成人の集い」「還暦の集い」ほか
- p29 OB会通信
陸上部、サッカー部、柔道部
- p31 2015年度事業計画・予算案
- p32 水泳と向き合う―選手として、そして今は
1990年〓平成2年卒業 岩原 文彦(高校42回生)
- p33 2014年度事業・決算報告
- p34 2014年度表彰報告
- p35 2014年度定期総会報告
1966年〓昭和41年卒業 山際 幸雄(高校18回生)
- p36 2014年度本郷祭報告
1974年〓昭和49年卒業 立入 健司(高校26回生)
- p37 本郷学園同窓会役員一覽(案)
- p38 本郷学園同窓会会則
- p39 学園だより
● 2015年大学入学試験合格実績
- p40 本郷学園同窓会会則
- p42 本郷学園同窓会会費納入者一覽
- p43 トピック
鎌倉にて
1969年〓昭和44年卒業 中田 守喜(高校21回生)
- p44 計報

ごあいさつ

本郷学園同窓会
会長

南谷 修

1956年=昭和31年卒業
高校8回生

激しく動く世情。世界では中東やアフリカでの争い、航空事故など。国内では安全についての問題（安全保障・原子力発電・核の処理）、そして民法の改正や人口問題と将来を見据えた課題が山積みであるなか、経済はすこし明るい状況となり株をはじめ景気が上がりつつあります。

学園につきましては、昨年と同様に国立大学、早慶へと順調な結果を得ております。校歌の一句のように「国の柱の苗木を育つ」とく、若い力を学生へと送り出しております。これは生徒の努力もさることながら、理事長をはじめとする学校側と校長、先生、職員のご指導の賜であります。感謝申し上げます。

また2号館1階ロビーに「結び目」の彫刻が設置され、見る人によっていろいろな感想があるようです。将来との結び。夢と現在を結ぶ。そして絆を表しているのだから、それも親子の……生徒同士の、学園との……先生との、といろいろでした。

入学には少子化の影響を受けず順調であるとのことでした。

恒例となりました各分野での活躍された生徒への表彰は9件（文科系6件、運動系3件）32人を表彰いたしました。「成人の集い」も高校64回生111人が集まり、次期を担う若人の活気が満ちておりました。

同窓会の高齢化が進み、若い方々の参加

をお願い致します。どうか皆様のお力をおかしいただき同窓会を盛り上げていただきたいと、切にお願い申し上げます。



五十嵐芳三氏作「結び目」



学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には、日頃、学園のために、多大のご指導、ご支援をいただきまして、心から御礼申し上げます。

昨年1月に、創立90周年事業として建設が完成しました5階建ての新2号館は、1年間かけて、これの有意義な活用方法を生徒とともに検討しながら、模索を続けてまいりました。特に、2階の図書館、ラーニングコモンズ、屋上の野球の投球練習場は、生徒達にもたいへん評判が良いようであります。また地階の講堂も有効に使われています。ここに教育環境の整備が一段落したと考えております。

この2号館入り口正面には、創立者・松平頼壽伯爵のブロンズ立像と、現代日本を代表する彫刻家、五十嵐芳三氏の「結び目」という彫刻を置きました。頼壽伯の立像は、調査をしたところ、彫刻家、藤川勇造氏の晩年の作で、日本の美術界に於いてもたいへん貴重な作品であることが分かりました。今までは、生徒達が像の台座に登ったり、帽子を被せたり、マフラーを巻いたり、いたずらをやっていたようでしたが。

平成26年度の高校卒業生の大学進学実績は、昨年同様、たいへん良い

結果を出してくれました。

また、2月に行いました中学入試、高校入試も、昨年よりも志願者が増加し、多くの良い生徒が入学してくれました。

これは、北原校長をはじめとする教員方の努力の賜物であり、この平成27年度も、本郷学園は明るい方向に向かって進むことが出来るように、喜んでおります。

同窓会の皆様方には、引き続き今後とも、何卒よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

そして皆様方のますますのご健勝、ご活躍をお祈りいたします。



藤川勇造氏作
創立者・松平頼壽伯爵 像

投稿

本郷中学から
建築家へ

今里 隆

1945年=昭和20年卒業
(中学18回生)

中学5年生

中学5年生からこの物語は始まる。私の住んでいた家は、本郷中学からすぐ近くであった。昭和19年初め頃、学校から家に戻ると、初めて空襲警報が鳴る。戦争という現実とその恐ろしさをまだ全く感じていない頃だった。ラジオから「敵機が東京に侵入」と放送が流れ、家の屋上の上ってみたところ、いきなり見たことのない大きな飛行機が本当に目の前に現れた。操縦士の顔もはっきり見える程の超低空飛行。爆弾を落として来たのか、偵察なのか。恐ろしさに身体が硬直して動くことができなくなっていたが、敵機はそのまま中国方面に向かって飛び去って行った。これが悪夢の始まりであった。

4年生から5年生まで学徒動員で、農家の手伝いから始まり最後は

陸軍の造兵廠に昼夜交替で高射砲弾

の信管に火薬を詰める作業に励んでいた。昭和20年3月初め、卒業式が待たれる頃、夜勤を終えて家の近くまで戻ってきた時、辺りの様子がいとも違っていった。急いで走り出し、家の場所まで来ると両親と兄弟5人で住んでいた建物は、跡形もなくなっていて、地面にいた掘り鉢状の穴と散乱する木材があるだけだった。250Kの爆弾が落とされたのだ。父は、倒れた材木の間から這い出て無事。母は、破壊された防空壕の材木と材木の間の三角形のわずかな隙間から、兵士によって助け出された。母と一緒に防空壕に入った一番下の弟は、助からずに死去。他の兄弟は、学校からの動員で留守をしていたり、学童疎開していて無事だった。当日家に来ていた母の妹

が、家の中にいたにもかかわらずすり傷程度で助かったのは、奇跡なことだった。私ももし昼間の勤務であったら、今この世にいなかった。近隣は、家族全員が助からなかった家が多かったようである。

近くに住むこととなったが、次にあった焼夷弾による空襲で再び住んでいた家が焼かれ、火炎と竜巻の様な煙に逃げ場を失いそうになりながらも走り走って、ようやく松平校長邸の大きな屋敷に逃げ込み、窮地に一生を得た。当時は、中学校正面門から現在の2倍の奥行きのある銀杏並木が延びていて、右隣が四国高松の学生寮とテニスコート、左隣が永井体育館と永井教頭のご自宅、その左隣が昭和小学校で同級だった芦沢君の家だった。芦沢君の父親は松平邸で仕事をされていて、かううじて焼け残っていた彼の家が校長邸と地続きだった為に、彼の家から校長邸の大きな庭に入れてもらったのである。逃げ惑う中、本郷中学の鉄筋コンクリート校舎の窓から火が勢いよく出ている様、焼夷弾の破片をまとも

に受け顔に大けがをした女性や身体が広範囲にわたり焼けただれた人等を見て、まるで地獄絵図の中にいるような気がした。火災が収まった後、数時間ぶりに同級生宅でいただいた食事はとても美味しく今でも忘れられない。

東京美術学校建築科時代

このような戦争による悪夢のような惨状から逃れるように昭和20年4月入学したのが、東京美術学校（現東京芸術大学）建築科だった。本郷中学から原田順氏が一緒に入学し、1年遅れて新井英夫氏が入学してきた。同時期に三人も本郷中学出身が建築科に在籍していたのは、とても稀なことではなにかと思う。原田氏も新井氏も残念なことに、数年前に他界されてしまった。建築を学ぼうと明るい希望を抱いて入学したにもかかわらず、再び動員に出されることとなった。今度は、海軍電測学校で初年兵教育の為のスライド用の乾板絵を描くという仕事だった。電波とは何か等をわかりやすく解説する為の絵を描いていた。ここでも

機銃機からの攻撃に何度も会い、防空壕に入ることが多かった。

8月に終戦を迎え、授業が再開した。再開後始めての日本美術史の授業は、当時の校長、上野直昭教授の講義で、とても印象深いものだった。スライドを使って映写した仏様の大写しに、先生が大きな声で「なんと美しいではありませんか。」と一言。声がつまづいてしまい、沈黙が続いた。先生ご自身が感激されてしまったのである。仏像の見方は、この先生の授業で叩き込まれたと言える。古建築の見方も先生の授業がきっかけとなり、開眼したように思う。悲惨な悪夢からまだ間もない時に聞いた「なんと美しいではありませんか。」という一言は、世の中が大きく変わったことを、はつきりわからせてくれた言葉だった。

建築家として

私の建築家としての仕事の根底となっているプロポーション（比例）について学んだのは昭和23年であった。初めて法隆寺を見学に出掛け、

感得したのが比例である。見学後、戦前から始まっていた五重塔の解体修理の責任者だった浅野清先生のご自宅に何うチャンスに恵まれ、お話を伺った。「五重塔は、実測では左右対称ではなかった。正面から右に低い金堂、左に高い五重塔を並べて見た時に、後ろの山並みに溶け込むようにわざと非対称にしたのではないか。当時の棟梁の、見識は頭が下がる。」というものだった。それまでただ漠然と見学していた法隆寺



法隆寺遠景

法華堂



に、考えてもみななかった新しい見方が加わった。昭和20年、吉田五十八教授からの誘いを受け研究室に入室してから学生と研究室所員の二重生活をしていた私に、突然降ってきた閃きだった。その日以来、プロポーシヨンの大切さが私の設計の根本となったのである。

古建築の見方も、それ以来大きく変わった。古建築は一度見ただけでは何もわからない。何度も足を運んで見学をすることによって、やっと真髓らしきものが見えてくる。見学と実測によってわかったことを例に挙げてみよう。

東大寺

の法華堂（三月堂）は、年代が異なる時代に建てられた正堂と礼堂を繋いで一つにした建物だが、双方が美しく調和して美しい姿となっている。柱は直線上に並べられておらず、少し弓なりに配置されている。弓なりに配置された柱の上に垂木を置いているので、軒反りが美しく見える。

古建築の柱間は、等間隔ではないものが多い。例えば唐招提寺金堂の正面には柱が8本並んでいるが、中心部分にある柱間は広く左右端に向かって少しずつ狭くなっている。中心の柱間を広くすることによって建物に安定感を生み出しているのだ。この手法はギリシャのパルテノン神殿の柱にも見られ、造形的に鋭い感覚をもった人達のデザインが行きつくところは、洋の東西を問わず、共通



唐招提寺金堂

しているようだ。パルテノン神殿の柱には、他にも工夫がある。隅の柱をわずかに太くしてあるのだ。隅を太くすることで正面から見た時に強固に支える感じが出る。そしてもう一つ、建物を斜めから見た場合、隅の柱の背後は明るい空になるので柱が黒く見え、他の柱の後ろは建物である為、柱は白く明るく見える、黒く見える柱は、白く見える柱より同じ太さでも細く見えてしまう。そこで柱を全部同じ太さにしなないで、隅の柱を太くして全体のバランスを取る工夫をしたのである。鋭い造形感覚と美を追求する貪欲な姿勢を改めて感じる。

京都御所の高い塀は、南北に1m強の高低差がある。しかし、塀は段をつけることなく高低差を感じさせない造りとなっている。塀の外側にある水路は、水の流れに勢いを感じさせる為に、所々に段差をつけている。加茂川の水を引いているので清潔で清々しく感じられる。

ここで建築に限らず、日本特有の文化について記してみたいと思う。日

本は古来より奇数が好まれた。例えば七五三。割り切れる数でないものが縁起のよいものとされてきた。形もシンメトリーを好む西洋と異なり、形が歪なもの、左右対称でないものが好まれてきた。華道や陶器等にそれを見ることができる。音楽においても、邦楽や民謡は演奏家や歌い手に任されている部分が多く、音を外したり、遅れさせたり、早めたりすることによって個性を出すことが許されている。

光と影を大切に扱うことも日本文化の特色でもある。暗い玄関から取り次ぎに入り、ふすまを開けた途端に庭の明るい緑の景色が目飛び込む、障子越しのやわらかな光、庭に敷き詰められた白砂の反射光で室内を明るくする等、明りにまつわる様々な工夫が日本建築にはある。光を生活の中にとりこみ、楽しむ姿があるのだ。光だけでなく自然に対して畏敬の念を持ち、自然をそのまま受け入れ調和する姿が日本人にはあるのだ。このような四季折々の豊かな自然を愛で、自然と融合する姿勢は、文学、絵画、茶道、華道

等、様々な分野の根本にも見ることができ。六十数年私が追求し続けてきた日本建築は、このような日本文化を基盤としたものなのだ。

地震の国である日本は古より何回となく大地震に見舞われているが、信仰の対象であり地域の象徴的存在である神社、仏閣は、殆どが地盤のよい所に南向きに建ち、地震に耐えてきたものが多い。住宅も、その土地にしっかりと坐った家、いかにも新築ですと言わんばかりでなく、前からそこにあつたと思わせるような周囲の環境にぴつたりはまっているようなものが多い。街全体としても、歴史ある建物と新旧が共生しているのがよいのである。

⑦ 歴史の中で残る建物は、最先端のもの（エッフェル塔がその例である）
これからの日本の建築はどのようなべきだろうか。和の建築は20世紀の後半長い時間をかけて消えていった。室町―江戸―明治維新―現代、行灯がなくなった時に、畳の衰退が始まった。時代は多く変わり、今や家そのものの考え方も生き様も天と地程変わったしまい、全てがITで解決される時代になった。私達の生活は、急速に洋風になった。洋風は、確かに機能的で便利であるが、なんとなく落ち着きに欠けるものがある。自然とつながり、四季を楽しむ和の空間とは大きく違う。今もう一度縁側、濡れ縁、床の間といったゆとりの空間を持つ和風の良さを振り返ってみるべきではないか。でも純和風といった堅苦しいものではなく、もっと気軽に楽しめる新しい形の和であつてよいと思う。省エネルギーの時代になり、一家に一台の発電装置をつけるようになって、それらの設備を備えた住宅にしていこうべき

- ① 土地にしっかりと坐つた建物
- ② プロポーション、比例が大切
- ③ 味わい深き建物
- ④ 長期間使用に耐えるもの
- ⑤ 日本独特の美しさを表現する
- ⑥ アンバランスの調和

投稿

私の生涯と音楽

志田芳久

1945年＝昭和20年卒業
(中学18回生)

初めて聴く音に驚愕

私の父は農家の二男として生まれ、大変な努力で医師の資格を習得した人でした。文京区の徳川家の末裔徳川宗敬氏の屋敷の一面を借用し、医師を開業しました。私はその

兄が本郷中学校を卒業し、念願の慶応義塾大学医学部に入學し其の後に追うように、私も本郷中学校の門を潜りました。

七人兄弟の末っ子として生まれまして。七人兄弟といっても、長女と長男が早く亡くなり私が生まれた時は五人兄弟ということでした。私が幼少の頃は、兄の猛烈な勉強の様子をみて育ちました。そうした家族の雰囲気、私だけがのんびりと音楽を聴いていました。何か動機があったのか、感動の機会に接したかまいった記憶がなく、小遣いを貰うとレコードを買い手巻きの蓄音機で音楽を聴き楽しんでいました。そうした私を回りの人は「のんびり坊や」と呼んでいました。

二年生の時講堂で、当時留学から帰国したばかりの福井直弘先生が電気蓄音機で音楽を聴かせて下さいました。その時こそ私にとって初めて音楽に感動しました。今まで聴いていた手巻きの蓄音機の音楽との違いを実感したのです。しかしその時は音楽を勉強しようとは思いません、この美しい音を再現したいと思いません。

それ以来同好の友人の影響もあって、ラジオの製作に没頭しましたが、なかなか財政的にも電気蓄音機までは及びませんでした。しかし勉強しているとき数学の必要性をひしひしと感ず

前ページより 続き

だ。また都会では法的規制があつて木造建築は余程広い敷地がないと建てられないので、建物をコンクリートまたは不燃の材料で箱を造り、内部は木造として、家族構成の変化に応じてしきりを変えていく。そのような木造の日本建築のよさを都会でも楽しめる住宅が理想的なのではないかと思う。

戦争の最中の本郷中学の学生時代の体験から始まり、建築家として歩む中で体得した様々な建築に関することを思うままに記してきたが、現代では想像もつかない戦争という過酷な現実があったこと、そして古来の伝統に根差した日本建築の素晴らしさを若き諸君に少しでもわかっていたらどうかできたかと思っている。また拙文を読んだ学生さん達の中に、古建築に興味を抱き見学を重ね、建築家となって日本建築の美しいプロポジションを受け継いでいくってくれるようなことがあれば幸いと一縷の期待も抱いている次第である。

るようになり、数学だけの個人指導に通うようになり、その先生の指導によって、数学に自信が持てるようになり、しかしその先生もやがて召集されてしまわれ、思い半ばで終わってしまいました。

戦争が急を告げる

そのころの日本は、物資が欠乏し食糧難や、金属の供出が求められるまで逼迫していました。日本人は誰もが、日清、日露の戦いに勝った日本の勝利を信じ、刻苦に耐えています。我々の学生生活も、学業を離れ、教練に力を注ぎ、農家や軍事工場に勤労奉仕に行くことが多くなってきました。

こうした環境ですと必然的に、軍隊に入って兵士の一員として国家のために尽くそうと考えるようになり、募集が、その時たまたま特別幹部候補生の募集があり、その内容が航空情報というものであったので、親の反対を押し切って応募し入隊しました。

隊内の生活は極めて厳しくはあり

ましたが、耐え難いものではなく通信に関する学習には興味を引くことばかりでした。特に打電、暗号などの分野では、意欲的に学習を進めていきました。一年経つていよいよ実戦への配置になります。私は静岡県の掛川の灯台に配置され、対空監視の任務に就きました。およそ米軍機はこの地点を目標として飛来してから、右旋回するのが関東方面へ、左に旋回するのが関西方面に飛行していました、私は命じられる俁に打電していましたが、住民の無事を折る気持ちと同時に、我が物顔で飛行していく米軍機を見、もう制空権の失われた国土を見たとき、敗戦の近いことを予感したのでした。

遂にその八月十五日がやってきました。玉音放送を聴くべく第一軍装で身を固めラジオを聴くのですが、幸か不幸かその音声は聞き取れず、後刻敗戦を知らされます。それから三日後除隊を命ぜられました。僅か二年に満たない軍隊生活でしたが、営門を後にすると束縛からの開放感がどっと押し

よせてきます。しかし戦争に負けた現実をどのように受け止めていくか判断に迷ってしまいました。

敗戦の悔しさが喜びに変わった

ピアノとの出会い

我が家が焼失を免れていたことは、知っていましたが、最寄りの巢鴨駅を降りたときは、余りにも焼失面積が広いのに驚かされました。焼失は我が家の二軒手前まで迫っていたのです。そして我が家に着いたとき、家からピアノの音が聞こえてくるではありませんか。その一瞬は信じられない情景でした。

母が私の生還を信じ、疎開に困った家のピアノを引き取って呉れたのです。この母の洞察力と愛情がなければ私の生涯は違った方向に進んでいたでしょう。勿論私はその時は何も弾けませんでしたが、それから暫くはほんやり過ごしましたが、ラジオの修理を委託されることが多くなりました。選択に困っているときこれからは、学問より実社会で活躍し

た方が、と進めてくれる人もいました。苦慮の末やはり私は音楽の仕事をするべきだと結論づけました。そして師範学校、後の学芸大学に入学しました。

才能ある少年との出会い

小学校に勤めるようになって、私は専ら合唱指導を中心に、子供を「音楽好きに」するべく努力しました。ところが四年生の授業をしたとき、後に音楽家として有名になった「羽田健太郎」と出会います。授業前の休憩時に何と彼がピアノを弾きことも達のレクエストに応じているではありませんか。勿論楽譜など見ていません。子ども達の楽しそうな様子に音楽室に入ることを暫し躊躇いました。「ああ」これが天分というものだと直感しました。私のような鈍才が天才を教えることになったのです。しかし彼の明るく素直な性格は、何時も私の授業を助けてくれました。そればかりか日曜日には家に遊びに来るようにさえ

なったのです。

貴島清彦先生との出会い

私は在職中一年間だけ憧れの東京芸術大学に留学させて頂き、そこで池内友二郎先生に和声学を習い、その人柄に惹かれ作曲の門下生を乞うたのです。「私はいま生徒をとっていません。貴島清彦君をご紹介しますよ」と、その言葉通り私の最後の師匠となった貴島清彦先生を紹介されました。

昭和三十三年頃でした、まだ在職中でしたが自分の音楽を表現できる喜びに溢れていました。そのころ先生はフランス留学から帰国され複合音楽に傾倒されていましたので、西洋音階と日本音階の複合を研究されていました。私達門下生はこの複合陽旋法の手法の実践者として作品を書き、毎年「青樹舎」の名の下に作品を発表してきましたが、一九四四年五月一〇日の浜離宮朝日ホールでの発表会が最後になりました。この時は私は「チェロとピアノのための

日本民謡によるパラフレーズ」と題する曲を発表しました。日本民謡のもつ叙情性を、チェロとピアノという西洋の楽器で表現しました。その後間もなく貴島先生が亡くなり、青樹舎も解散し以後発表の機会はなくなりましたが、独唱曲や合唱曲などを書き続けています。戦争という忍耐を乗り越えて遮二無二に音楽に生きた生涯でしたが多くの人に支えられ幸せです。

附記

銀友四十三号に記載された松本易夫著「ひたすら歩むジャズの道」を拝読しました。松本易夫君は私の親友故松本章の弟さんです。文中にもあるようにこの兄弟のお父さんはモダンな方で、徳川家の末裔徳川宗敬氏の執事を務められながら、殿様に写真の教示をされておられました。その影響でしようか、易夫君がジャズ・ミュージシャンの道に進まれたのは。この記事を読んでジャズを通しての波瀾万丈の生涯と、ひたむきな情熱に敬服させられました。

投稿

我がミュージシャン人生、

全ては本郷から――

ふじいイチ
ヨ一陽一
(藤井陽一)1982年＝昭和57年卒業
(高校34回生)

この度は後輩の同窓会理事の一人で、かつては一緒に仕事もさせていただいた竹野谷茂さんの依頼で、銀友に投稿させていただくことになりました。

ラグビー部、剣道部そして吹奏楽部

早いもので私が本郷高校を卒業してから30年以上経とうとしています。大学に行かなかった私にとって本郷高校は最後の学校生活を送った場所であり、また今の自分の人生を決めた学び舎でもあります。

そもそも私はラグビー好きの父の影響もあり、ぜひとも本郷でラグビーをやりたいとの思いで受験しました。それまでは運動という小学校時代に剣道、水泳をやっていたくらいで、あとはひたすら吹奏楽部でトランペットを吹く毎日。確か受験

前の学校見学で、ラグビー部の練習をのぞかせていただいたのですが、その時見た先輩たちの顔は歯が折れて耳が潰れている。「これは無理だ」と、運動部の経験のない私は気持ちが悪くなりました。しかし本郷高校には入りたくない気持ちは変わらず受験、なんとか入学。

その後、クラブ活動をやるなら吹奏楽部かなと思いついたところ、人数が約10人程度。大人数でコンクールにも出ていた私の中学校と比べるとあまりにも違いすぎる。で、吹奏楽部には入らず様子をみていたところ、体育の授業の時間に、ラグビー部顧問の大浦先生に呼び止められました。体格の良かった私に「ラグビーやらないか？」と。返事をに「ごしその場を逃れましたが、後日、再度オファーが。というのも、後に

ラグビー部のキャプテンになる同級生が私と同じ中学校出身で、私がラグビーをやりたいと本郷を受験したのを知っていたのです。その彼が大浦先生に私のことを伝えたらしく、半ば強制的に入学。

腹を決めて練習しましたがひたすら体力作りのトレーニングのみ。ま、新人は当然ですが、運動部経験のない私にはキツイ。一週間もやらなかったと思います。先生に退部することを伝えました。理由は「剣道をやりたい」と。経験のあつた剣道ならまだ耐えられるだろうと入学。が、甘かった。ひたすら校舎外をランニングの毎日でした。私の前を走り、差をつけて離れていく同級生がいました。これもダメか、運動は自分には向いてないのか。やっぱり吹奏楽部でトランペットを吹くのが向いているのかもしれないと思いに、またまた剣道部を退部、吹奏楽部に入学したのでした。

夏の体育の水泳授業の時でした。泳ぎでランク分けし、各ランクに体

育の先生方がついて指導していただいたのですが、その時の私の担当の先生がラグビーの大浦先生だったのです。きつとなにか言われるなど思いながらの授業。案の定、授業のあとに言われました。「お前、剣道やるとラグビー辞めたけど剣道やっているのか？見ないけど……」。いや、実は剣道もやめて吹奏楽部に……。[なに!!吹奏楽部！お前みたいなカラダしていて運動しないで吹奏楽だど〜!』と。いまでも、ハッキリ覚えています。

ただただトランペットを吹きたくて 経験のある私にとって10人余りの吹奏楽部では、すぐに曲も吹かせてもらえる楽しい部活でした。そのころ、父がドイツ出張の帰りにトランペットをお土産に買ってきてくれたこともあり、余計やる気を増したのです。ただ、なにせ部員が少ない。合奏が思うようにいかない。初心者部員が多いこともあり、なかなかやりたい曲ができなかったり、譜面

がないなど苦勞もありました。楽器も当然、部員が少ないため、足りないパートがでてきて、ホルンを吹いていた時期もありました。もちろん自分はいくまでトランペットで、持ち替え感覚ですが。

私のやりたかった音楽は、クラシック、ジャズというより、ただただトランペットを吹きたかった思いが先でしたが、ジャズのビッグバンドにも興味が出てきたのです。と



吹奏楽部時代の私(左)。中央が北岡先生

いうのも中学生時代に地元にある市民バンドの軽音楽部に所属し、アマチュアのおじさんたちに紛れてダンスパーティーで演奏したこともあり、市の文化祭では歌手の伴奏までやっていました。もう亡くなられた霧島昇さんという歌手で「花も嵐も〜」と歌っていた方です。当時は中学2年生。歌の伴奏はさておき、ダンスパーティーは、やはり中学生の私が社交場でラップを吹くことで、父が猛反対。受験も控えていたので即辞めることにしたのでした。

話は戻りますが、そんな経験があったこともあり、ジャズビッグバンドをやりたい気持ちが高まると、ジャズ系の譜面も入手して、吹奏楽部でやらせてもらったのを思い出します。顧問の先生は北岡太先生。北岡先生は声楽で当然音大出のクラシックの方。と思っていたらなにか様子が違う。ある日先生が自分のトロンボーンを持ってきたのです。それも、いまでも鮮明に覚えて

いますが、ピカピカのKing Super 20という名器のモデルでした。実はなんと、先生はトロンボーン吹きで、若いころはジャズバンドいたそうです（そのことは卒業後に知ったのですが）。当然クラシックのブラスも好きで、夏の合宿に行った際には、よくラジオでやっていたブラスの響きという番組を聴かせていただきました。また情操教育として日本のジャズビッグバンドのひとつ、原信夫とシャープス&フラッツの演奏を日比谷公会堂で鑑賞。自分の中では日増しにジャズプレーヤーになる気持ちが高まっていたのです。

2年生のころ、剣道部でいつもランニングと一緒にスタートし、そのうちに私の前から見えなくなってしまう同級生の本木君（後に彼はラグビー部で花園へ）からバンドの誘いを受けました。彼はギターを弾き地元の仲間とバンドを組んでいて、彼の練馬の自宅で練習をしていたのです。当時はフュージョンという言葉をしていましたが、彼らのやっ

ている音楽には管楽器は入っておらず、勝手にラッパの吹くところを作っては、一緒に演奏していました。そのころはラッパの日野皓正がコマースヤル等で大人気。当然、日野さんの曲もコピーしてバンドで練習。そして2年生の終わりにホールを借りてバンドのコンサートをを行ったのです。

「ジャズじゃ食べられない」:

けれども

ジャズのビッグバンドは当然、学校にはありませんし、演奏するとはできない。ラジオの公開録音によく足を運び聴いていました。そんな高校生活を送っていると、あつという間に高3の進路を決める時期になってしまいます。もう気持ちはプロになりたい、ただそれだけでした。北岡先生に話だけでも聞いてもらおうと相談したところ、もうすでに、私の気持ちを察して、シャープス&フラッツのリードトランペットを吹いていた森川さんに、

私のことを話していただいていたのです。なんと森川さんは北岡先生の学校の先輩にあたる方でした。森川さんは「ジャズじゃ食べられない。やめた方がいい」と言われたそうです。

あ、そうですかと引き下がるはずもなく、でもそれでやっている人たちはたくさんいるし、と心の底では思っていた、どうするか迷いながらの毎日でした。親は当然反対。

一流大学、一流企業に勤めていた父親は「そんな音楽でご飯を食べるなどもつてのほか」と。そんな両親のことも思い、とりあえず大学に行つてから、また趣味でラッパを吹いて先のことを考えればいかと受験。が、しかし失敗。浪人生、予備校生になったのです。

高田馬場にあった予備校の近くはジャズ喫茶、ライブハウスがたくさんある街。そんな環境の中にある予備校だったためか帰りには、必ずといっていいほど寄り道をして帰っていました。予備校ですので授業を

出なくとも、卒業出来ないとか落第するとかはないので、だんだん授業には出ず、音楽の世界に入っていたのでした。そのうち仲間も増えて数々のバンドでいろいろな経験を積みました。気持ちはすでに受験よりもバンドに変わっていながらも再度の受験。そこそこの大学でないと行く意味もないとプライドの高かった私は、有名大学のみ受験しました。が、音楽しか頭になく勉強はしないので、当然、受かるわけがありません。親は音楽の道には反対。でも、そのころには当時の先輩一流ミュージシャンとも交流がありました。そこでその方をお願いして、親の説得に家まで来ていただいたのです。親は納得したのか諦めたのか分かりませんが、その後私は、音楽の道に入っていました。

針の穴に糸を通す感覚で

息を入れて

仲間や先輩にも恵まれ、いろいろな音楽をやらせていただき、キャバ

レーバンドからダンスバンド、ジャズバンドをはじめソウルバンド、ラテンバンド、歌番組なども経験しました。ひとつの音楽を突き詰めていくミュージシャンというよりは、職人ミュージシャンとして、20代からスタジオやコンサートの仕事をさせていただいたのです。そんな数々の仕事のひとつとして「つくば万博、85」のパレードやステージでの仕事をさせていただきました。その折、冒頭で触れた本郷高校で一学年下だった竹野谷さんがスタッフとして



渡辺貞夫さん(前列)と。右端が私

働いていました。いまは数々のSNSで昔の友達とも連絡が取れるようになりました。当時の仲間とも繋がるのは素晴らしいことですね。

現在も歌手のツアーをやったり、ライブ活動を続けています。また違ういろいろな楽器にもチャレンジ。SNSを利用して海外のミュージシャンとも交流もっています。最近になり、またいろんな楽器にも挑戦しています。しかしトランペットは本当に難しい。「これで完璧！」ということはありません。常に良い状態、良い音をイメージしながら針の穴に糸を通す感覚で息を入れて吹いています。楽器の特質上目立つし、音も外しやすい。ミスをすればクビになる。でも面白い。だから続いているのかもしれない。近年は現代音楽をオペラシテイホールでソコを吹いたり、映画のシーンに出たり、進化した機材を利用して、ベースを弾いた後にラッパを重ねて吹いたり、いろいろな挑戦させてもらっています。

投稿

水泳と向き合う
——選手として、
そして今は——
岩原文彦

1990年=平成2年卒業
(高校42回生)

インターハイで優勝

もの心ついたころには父に連れられてプールにいた。そして小学校に進むと同時に、姉とともに東京駒込の東京スイミングセンターに入り、水泳の手ほどきを受けることになった。いよいよ水泳人生の始まりである。

とにかく楽しかった。泳げるようになって、早く泳げるようになって、そして早く泳げるようになって、が、学校の授業が終わると、はやる心を抑えてスイミングセンターに通った。
「好きこそものの上手なれ」とのたとえのとおり、記録をどんどん更新していく。9歳で春と夏のジュニアオリンピックに出場するまでになった。大会に勝てるようになれば、それが励みとなる。練習にもますます力が入り、さらに記録にその結果が反映されていく。こうした好循環のなかでハードな練習に明け暮れた。それでも、少しも苦にはならなかった。むしろ

張り合いのある楽しくてたまらない少年時代だった。中学生時代もジュニアオリンピック優勝、アジアユース香港大会優勝など数々の大会で好成績を残してきた。

周囲からそれなりに有望選手として注目されながら、当時は水泳強豪校になりつつあった本郷高校に入学する。1年生の時に本郷が関東大会で総合優勝した。インターハイには私を含めて8人が出場し、800メートルフリーリレーでは念願の優勝を勝ち取り、総合でも3位に入る快挙であった。この年、関東大会は山梨だったが、インターハイで北海道の函館、国体では沖縄と、北から南へ高校生としてはかなり豪華な遠征の旅も経験した。しかしはなやかな選手生活はこの時までだった。2年生になると肩と腰に違和感が生じ、ついには満足に力を入れることもできない状況となり、きちんとしたトレーニングができなくなっていた。

その結果、残念ながらインターハイには行けなかった。幸いマネージャーとして選手たちに行行することになったが、このことが、その後も水泳と向き合う大きな転機となった。

「ひまに任せた」水泳談義

マネージャーにもいろいろな役割がある。大会の応援席を確保するための「席取り」もそのひとつだ。朝早く大会会場に行つて席を確保する。しかし席を取つてしまえば、あとはウォーミングアップ終盤までなにもすることがない。ところがこの時、一緒に「席取り」をしていたのがお世話になっている東京スイミングセンターの平井伯昌コーチであった。たっぶり時間はある。当然、「ひまに任せた」水泳談義に花が咲く。水泳について、練習の考え方について、それにもとづく練習メニューの組み方……などなど。当時の水泳界では、ご法度のようにいわれていた陸上トレーニングやウエイトトレーニングなどの有効性についても説明してくれた。そうした事例も含めて水泳の未来をわかりやすく語ってくれた。

選手はタイムを伸ばそうと必死に泳いでいる。その陰で選手たちを真剣に支えるコーチの大きな存在を初めて知った。コーチングも面白そうだな、と少なからず興味を覚えた。もし選手としてインターハイに行っていたら、この平井コーチとの対話のチャンスはなかったであろう。平井コーチの水泳に対するほとばしる熱情に圧倒されたのを、今でも懐かしく思い出す。

大学2年で選手生活に見切り

3年生になり卒業後の進路を決めなければならぬ。スポーツ推薦で入学できる大学を3校紹介されていたが断っていた。大学進学にそれほどこだわっていなかったし、学業に自信もなかった。機械科においてそれなりの資格を取っていたので、専門学校に進むつもりで漫然と過ごしていた。年の瀬を前にしてのことだった。突然、膽尿管合流異常のため父が倒れてしまった。入院中の父に専門学校進学を告げると、父は即座に「だめだ。大学へ行け」という。それからの猛勉強であったが、推薦入学を断っていた国士舘大学を

受験し直し、幸いにも合格した。

学部は体育学部。高校時代は竜頭蛇尾になってしまった水泳を、もう一度やってみようと思いい泳部に入る。話に聞いていたとおりのスパルタ練習で、来る日も来る日も泳ぎに泳いだ。しかし、どうしても中学、高校時代のタイムでしか泳げない。成人になり体そのものは成長、充実して行くのに記録は伸びない。自分だけ取り残されていく。後輩にも追い抜かれる。なぜなのか。もんもんとした選手生活が続く。いつしか「ここまで頑張ってきたのだからもういいかな」、と弱気にもなった。社会勉強と称してアルバイトまで始めてしまう始末だ。選手生活は2年生までで見切りをつけてしまい、泳ぐのをやめてしまった。さらに退部を申し出た。が、これは慰留されて残ることになった。水泳部にかろうじて籍を置くだけとなったが、コーチングには興味をもっていたので、プールサイドには居続けることになる。どうしても水泳から離れることはできなかつた。

科学的トレーニングの採用

選手から選手をバックアップする側への転身を考えていたのだ。水泳選手として果たせなかつた自分の夢を、素質のある選手にぜひ叶えさせてあげたいという思いが心の底にはあつた。と同時にそれは、これまで自分が取り組んできた練習でなにか足りなかつたのか、それとも限界だつたのか、それなりに自身の泳ぎを総点検しておきたかつたからでもある。ともあれ水泳への情熱を形のうえでつなぎ止めておきたかつたのである。そうしたいので、それまでの経験と知識をもとにコーチングに励んでいると、水泳部に改革の風が吹き込んできた。医師であり日本水泳連盟医、科学委員会の松本高明先生が監督になると、血中乳酸値の測定による科学的トレーニングが採用され始めた。いわゆる水泳の数値化である。各選手の血中乳酸値を測り、その測定結果をもとに練習メニューを組み立ててコーチングにいそしむ日々であつた。

ある日、その松本監督から東京大学で医学の視点で水泳の研究をしている武藤芳照先生の研究室で勉強してみないか、と誘われた。それまでの生活環境が

らは考えられない立場だ。大学を出たら普通に就職しようと思っていた。しかし心が動いた。水泳の科学的トレーニングが注目されはじめたころでもある。ここでしつかり勉強して水泳のコーチになるのも選択肢のひとつになると思い、研究生を受けることにした。

大学院に進み体育科学博士に

大学を卒業して、東京大学での2年間の学部研究生の生活が始まる。だが悪戦苦闘の連続であった。いわば畑違いの別世界。はじめは研究室で飛び交う基本的な用語すらわからず、ドギマギすることもしばしばであった。それでも先生の授業に出席するなど、東大生と同じ経験ができたことは大きな収穫であった。この間、大学の水泳部のコーチングをするかたわら、水泳と運動生理学についての勉強を基礎から学んだ。やがて両親との約束であった2年間の研究生生活の期限も終わりに近づき、就職も頭の隅にあったが、それまでの研究生生活を無駄にしないとの思いも強く、大学院に進むことにした。

大学院は東京大学ではなく日本体育大学を選んだ。研究室の仲間たちからは、当然のこととして東大を勧められた。東大となればどうしても基礎研究が中心になってしまう。しかし私の希望としては、研究者になるよりも水泳の現場で、研究室や大学院での研究成果をコーチとして応用、展開したかった。そうしたい思いから現場の研究をさかんに行っていた日体大を選択した。専門は運動生理学。博士過程の3年間では、激しい運動のあとに軽い運動を行う「アクティブレスト(クォーリングダウン)」を中心テーマに研究を重ねて学位論文をまとめ、体育科学博士の資格を取得した。

五輪めざす競泳選手をサポート

博士課程に進学したことから、学業に専念するために母校でのコーチングはやめることとした。しかし、これまでの知識や研究結果を現場に生かせと平井伯昌コーチに口説かれ、当時、将来の活躍が期待されていた本郷高校の後輩でもある平泳ぎの北島康介選手をサポートすることになる。平井コーチをヘッドとするチー

ム「北島」に参画し、彼のパフォーマンス分析を担当し、より速く泳ぐためのレース展開の組み立てやトレーニングの立案などに携わってきた。大学院を出てからも、しばらくの間、チームの一員として北島選手をサポートしていくことになる。そしてはからずも、北島選手あのオリンピック連覇、オリンピック4大会連続出場の偉業達成に立ち会う幸運に恵まれた。北島選手は、苦しい努力をし続けることができ、能力にとっても優れており、こちらの要求に次々とこたえていった。

今は、日本水泳連盟の競泳委員会、科学委員会の一員として、トップ・アスリートを育てるために、国が取り組むチーム「ニッポン」マルチサポート事業(日本スポーツ振興センター)に所属し、競泳のパフォーマンス分析を担当している。この事業は、最新のスポーツ科学の知見を駆使して、日本選手の国際競技力の向上を目指すものだ。2020年には東京でのオリンピック開催が決まり、日本選手のメダル獲得への国民の期待は日増しに高まっている。ただしその前に、来年にはブラジルのリオデジャネイロ大会が待っている。

本郷の先輩たち

Part.1

2014年度本郷祭展示から



正隆 山先生
1940年=昭和15年卒業
(中学13回生)

大正11年(1922年)9月6日東京都牛込区(現新宿区)弘方町に生まれ、本郷・小石川(現文京区)で育つ。元東洋大学文学部国文学科教授。文学博士。専攻は、歌舞伎・人形浄瑠璃・邦楽。平成5年11月、勲四等旭日小綬章受章。

(社) 義太夫協会名誉会長。(財) 日本舞踏振興財団評議員。(社) 全日本郷土芸能協会顧問。

国立劇場養成課講師。
〔学歴〕真砂尋常小学校、私立本郷中学校、府立・都立・高等学校文科乙類を経て、東京帝国大学文学部国文学科に入学するも、昭和18年12月、学徒出陣により海軍大隊(二等水兵)兵科第四期学生(海軍少尉)のために休学し、戦後の昭和24年3月同同学(東京大学と改称)卒業。

〔職歴〕公立高等学校教諭、戸板女子短期大学教授、清泉女子大学教授を経て、東洋大学文学部国文学科教授を、平成5年3月定年退職。

〔その他歴任した公職〕文化財保護審議会専門委員、同第四調査会会長。文化庁芸術音楽部門・レコード部門審査員。文部省芸術選奨選考審査委員。日本芸術文化振

興基金専門委員。国立劇場文案評定委員。
(社) 義太夫協会会長。

〔主な著書〕勸進帳いろいろ 芸能あ・ら。かると』『愛すべき小屋―村芝居と舞台の民族誌』『歌舞伎音楽の研究―国文学の視点』『歌舞伎評判記集成(共著)』『農村舞台の総合研究(共著) 他

〔主なレコードアルバム監修・解説〕ピクチャー「上下下座音楽集」同「至芸 豊竹山城少摺」他

本人からのコメント

母校の本郷中学の開校は、大正12年4月ですが、前年には、開校の準備が進められていましたから、大正11年9月生まれの私は、母校と同じ年だと思っており、母校に対する思いには格別深いものがあります。私は、幼少の頃から、歌舞伎や人形浄瑠璃に惹かれるものがあり、自分の小遣いで歌舞伎の前売り券を買い、単身で歌舞伎を観に行っていたのは、中学2年になったばかりの5月でした。その後、中間考査や期末考査の時、午

前中に帰宅するので、早々に昼食を済ませると歌舞伎座に行き、立ち見(現在の一幕見。当時は、大向こうで立ちたま。幕を観ました)で歌舞伎を一暮観ると気分が爽快になり、翌日の試験の準備に集中できた、という思い出もあります。中学3年の終わり頃から、歌舞伎・人形浄瑠璃の研究者になることを夢見るようになりまして、将来の生活のことを考えると、不安で、本中を卒業して東京高等蚕糸学校製糸学科(東京農

工大学の前身)に進学したのですが、入学直後に後悔して、親に無断で退学届を提出し、初志を貫くことを心に決めて1浪の後、府立高等学校(東京都立大学)首都大学東京の前身)文科乙類を経て、当時、歌舞伎・浄瑠璃の学者として著名であった守随憲治博士のおられる東京帝国大学文学部国文学科に入学し、待望の守随先生に師事することとなり、今日まで、何とか初志を貫くことが出来ました。私の学位論文は『歌舞伎音楽の研究―国文学の視点』(新典社刊)です。

以上のような私の経験に鑑み、後輩の皆さんも、本郷学園在学中に自身の将来について深く考え、目標を見定めることが、1回しかない人生にとり、極めて大切なことではないかと思えます。私は92歳の現在も、国立劇場養成課の講師を委嘱され、歌舞伎音楽関係の研修生に歌舞伎音楽の講義をするために、月に数回、劇場に向かっています。



今隆 山先生
1945年=昭和20年卒業
中学18回生

1928年 東京に生まれる。建築家
1949年 東京美術学校(現東京藝術大

学)建築科卒業
1949~64年
吉田五十八(日本芸術院会員、東京藝術大学名誉教授)に師事し吉田五十八研究室勤務

1964年 杉山隆建築設計事務所を創設
創設

1988~91年
東京芸術大学客員教授

1978年 SDA賞賞受賞(池坊本部ビル)。

1980年 東京都建築士事務所協会特別賞受賞(池上本門寺御廟所及び大客殿)

1986年 建築業協会特別賞、日本経済新聞新製品賞受賞(国技館)

1989年 東京建築賞優秀賞受賞(成川美術館)

1994年 きょうと景観賞受賞(京都竹茂楼・BELCA賞受賞(南座)

1999年 高松市都市景観賞受賞(松平公益会)

2002年 東京建築賞奨励賞受賞(財団法人日本美術院)

主な作品
国技館(共同設計)・池上本門寺御廟所及び大客殿・総本山醍醐寺霊宝館及び伝法学院・平山郁夫美術館(公財)

日本美術院・南座・大平正芳邸・松尾敏男邸他多数

(公財) 国際茶道文化協会評議員(公財) 五井平和財団

役員

2014年度本郷祭展示から

著書 「屋根の日本建築」(NHK出版)・「建築用木材の知識」(鹿島出版社)

本人からのコメント

私は、本郷中学卒業後、東京美術学校(現東京藝術大学)で、近代数寄屋建築を確立した建築家吉田五十八に師事し、建築家として60余年、日本建築を現代にいかにか活かすかを追求してまいりました。人間が快適に過ごせるデザインの美しい空間造りを目指しております。幸い、お施主様に恵まれて規模の大きなものから個人住宅に至るまでいろいろな建物の設計を手掛けることができました。昨年竣工した歌舞伎座では劇場監修を担当し、現在は、長野県戸隠に来春竣工する美術館の基本構想及び監修をしております。本郷中学で学んだ基礎があったからこそ、東京美術学校で師と出会い、近代日本建築追求の長い道のりを歩んでくることができたと思っております。これからは建築家として益々精進を重ねていく所存です。



佐々木 忠次 さん

1951年=昭和26年卒業
高校3回生

1933年 東京生まれ。日本大学芸術学部卒業後、オペラ、バレエ、演劇など様々な分野の舞台芸術において、舞台監督と制作プロデュースを務める。

1964年チャイコフスキー記念東京バレ



丸山 敬太 さん

1983年=昭和58年卒業
高校35回生

1965年生まれ。東京都渋谷区出身。服飾デザイナー。

1987年に文化服装学院ファッション工科・アパレルデザイン科を卒業してファッション界に入る。

1990年にフリーデザイナーとしての活動を開始し、DREAM COME TRUEのステージ衣装などのデザインを手がけたことで業界に知れるようになる。

工団を設立以来、国内はもとより30か国で722回にもわたる

海外公演を表現し、東京バレエ団のレパルを欧米の著名なバレエ団とならぶところまで引き上げることに成功した。

東京バレエ団総監督、日本舞台芸術振興会(略称NBS)専務理事を務める。

数多くのバレエ、オペラの公演を主催し、「日本のディアグリ」と言われる。

また、その経験を著書に(だからオペラは面白い・怒っている人、集まれ)等として

1991年に芸術文化勲章コマンドゥー

1994年の秋冬東京コレクションで自らのブランド「KEITA MURAYAMA」をデビューさせ、1997年にはパリコレクションにも進出した。

現在デザイナー業の傍ら、名古屋学芸大学ファッション造形学科特別講師を務める。

2012年には、2013年度上期から日本航空の客室乗務員・グランドスタッフが着用する制服の監修を行った。

受賞歴

- 1996年 毎日ファッション大賞新人賞、資生堂奨励賞
- 1998年 FCEデザイナー賞

ル、1999年には国家功労勲章オフィシエを受賞しています。

第6回(2006年)朝日舞台芸術賞を東京バレエ団(「ドナウの娘」などの舞台成果)が受賞をしている。

文化交流の推進を通して日仏関係を強化した多大な功績により、2014年フランス政府より

国家功労勲章グラントフィシエを受賞する。

ケイタ マルヤマ(KEITA MURAYAMA)の20周年を記念して、表参道ヒルズで『丸山敬太20周年祭「丸山景観」全集大成展』が開催(2014年8月8日(金)~17日(日))された。

本展では、アートディレクターの森本千絵がディレクションを担当、アーティストが着用した衣装をはじめ、テキスタイルや作品の展示など等を行い、丸山の世界観を演出した。

展示会について、「僕の洋服には物語や景色だったり、身につけることで色んなものが見えてくるという所から、「丸山景観」と名付けました」と語る。

本郷の先輩たち

Part.3

2014年度本郷祭展示から



木村 季由 さん

1985年 = 昭和60年卒業
高37回

1966年生まれ。東海大学体育学部競技スポーツ学科准教授、同大学ラグビー部監督。

本郷高校、日本体育大学でWTTB（ウィング）として活躍後、民間企業での営業職を経て、日本体育大学大学院に進学。

パイオメカニクスや運動生理学の研究に精を出すと同時に、ラグビー日本代表のフィットネスコンディショニングコーチ等も務めた。

そして、元日本体育大ラグビー部監督で学長でもあった故・綿井永寿氏の勧めもあり、1988年度から関東大学リーグ選2部に降格した東海大の監督に就任。

翌年1部に昇格し、就任10年目の2007年度に関東大学リーグ戦1部優勝を遂げ、2010年度まで4連覇を果たした。

全国大学ラグビーフットボール選手権大会においても常連校となり、2008年度、2010年度、2011年度はベスト4に、2009年度には同大会準優勝という戦績を残している。現在も「大学日本」に向けて日々奮闘中である。

また、ラグビー日本代表の現主将である

マイケル・リーチ選手をはじめ、数多くの日本代表ヤトッブリーガーを育て上げている。

主な戦績

2007年度

関東大学リーグ戦初優勝

2008年度

関東大学リーグ戦優勝
全国大学選手権大会
ベスト4

2009年度

関東大学リーグ戦優勝
全国大学選手権大会
準優勝

2010年度

関東大学リーグ戦優勝
全国大学選手権大会
ベスト4

2011年度

関東大学リーグ戦2位
全国大学選手権大会
ベスト4

2012年度

関東大学リーグ戦優勝
全国大学選手権大会
ベスト4

佐藤 篤志 さん

1998年 = 平成10年卒業
高校50回生

EXILEボーカル AT SUSHI。歌手、作詞家、作曲家。

1980年生まれ。埼玉県越谷市出身。4歳から高校卒業時までクラシックピアノを習う。

高校生の頃に本格的にヴォーカリストを目指すようになる。

高校卒業後、専門学校（ESPミュージカルアカデミー）でヴォーカリストとしての技術を磨く。

2001年EXILEの前身「J Soul Brothers」に加入、8月に「J Soul Brothers」から「EXILE」に改名。

9月シングル『Your eyes only』曖昧な僕の輪郭』でデビュー。2002年3月、EXILEのアルバム「our style」に詩を提供し、作詞家デビューをする。

2006年4月、NEMETHのソロシングル「追伸」に曲を提供し、作曲家デビューを果たす。

2010年、自ら作詞作曲した、「道しるべ」をオルゴールにして、全国の小学校などに配布する。

2011年9月、「いつかまっぴー」にてソロデビューを果たす。

テレビ朝日系ドラマ「陽はまた昇る」の主題歌に起用される。

2012年1月1日、初のソロアルバム「Solo」を発売する。

2012年7月4日、『アジア・アーツィスト・スター賞』を受賞する。

2013年は「日本の心をうたう」をテーマに「それでも、行きてゆく」「道しるべ」「懺悔」を発表する。

「それでも、行きてゆく」では日本を代表するピアノ・辻井伸行、「懺悔」では、音楽界の巨匠・久石譲とのコラボレーションを果たす。

2014年4月からはソロツアー「EXILE ATUSHI LIVE TOUR 2014 Music」を開催中。

同期の輪

輪

2012年11月平成24年卒業（高校64回生）

成人の集い

変わり行く姿と変わらぬ心

桑原 基

久しぶりに巣鴨駅へとやって来ました。見渡せば駅舎は多少変わっていったものの、階段を上り下りする人の流れは変わっていません。様々な思い出が呼び起こされてきて、本郷での6年という歳月がいかに濃厚であつたかを再認識させられました。そんな懐かしさを抱きつつ会場へ向かいました。「誰がいるのだろうか」と、少々緊張しながら会場に着けば、まだ誰もいません。少し拍子抜けしたものの、在学中にここで遊ん

だこともあり、当時と変わらない安堵感も感じました。

しかし、続々と集まる同級生にその安堵感は覆されていくこととなりました。皆、本郷生であれば先生方に間違いなく怒られてしまうような格好で、現れてきたのです。とはいえ、実際に話してみると昔と何ら変わりない友人ばかりで、結局のところ、人はそうそう変わらないことを実感しました。そして乾杯の後には立食パーティーになりました。高校生時代とは違う視点で先生方とも会話をさせていただいて、始まる前のあの不安感はどこへいってしまつたのか。とても楽しい宴となりました。

準備を含め手伝ってくれた友人達には改めて感謝の意を表したい。また、ここまで楽しい「成人の集い」を行うことが出来たのも、ひとえに同窓会の諸先輩方のご尽力のお陰です。この場をお借りして、同窓会諸



2014年 本郷学園「成人の集い」

先輩方そして理事長先生、校長先生、恩師をはじめ学校関係の方々にあつく御礼申し上げます。

1973年 昭和48年卒業（高校25回生）

還暦の集い

千野邦雄

平成27年2月14日（土）16時に本郷高校の校門内に20名の同期生が集合し、同窓会のOBでもある現職の遠藤先生の案内のもと新校舎の2号館を見学し、久々の学校訪問に皆で感激した後、17時から始まる還暦の集いの会場である巣鴨三菱養和会に向かいました。

会場では、恩師である4名の先生、新井勲夫先生、大宮完太先生、阿出川信夫先生、田村正美先生の出席を賜り、同窓生21名、総計25名で高校を卒業して42年目である60歳の還暦を祝いました。新井先生の乾杯の発声で会は始まりまし

た。会の懇談の中で最も話題となっ

たのは、先生方が昭和45年ごろには生徒数を増やすためにご苦労されていたことでした。スポーツのクラブ活動で有名になることが先決であり重要と考え、サッカーやラグビー、ボート部に入れ新井先生、阿出川先生、大浦先生方が努力して生徒を指導監督し、東

京大会などで決勝戦に進めることが出来たことなどが熱く語りま



校経営にまで心を配る私立高校ならではの先生方のご心労はいかばかりであったか。そんなこととはつゆ知らず、ただただ無邪気に学園生活を謳歌していた出席者同、在学中の思い出をだぶらせながら、神妙に聞き入る場面もしばしばありました。

楽しい懇談の2時間半は、恩師との絆、同期の友との絆を再確認する貴重なひとときとなりました。先生方も同期の皆も会えたことを喜び、9月の本郷祭の時も皆で集まろうと約束し、校歌を斉唱して手打ちをし、またの再会を願い、19時30分に散会いたしました。

本中十八会総会を終えて

1945年 昭和20年卒業（中学18回生）

秋紺の平成二十六年十一月八日、昨年同様母校本郷学園に近い、三菱養和会スポーツセンター内パルテールに十九名の期友を迎え、四十三回の総会が現在本郷学園の理事長をさ

れている松平頼武先生のご出席を得て行われました。

今回の総会は、期友の高齢化に鑑み、今回をもって最後とする提案をすることとなりました。その提案は三回にわたる慎重審議の結論であり、四十三年に及ぶ歴代会長をはじめ幹事諸氏の努力と会員の皆様の支えを考えた時断腸の思いでした。

総会は松廣君の司会で始まり、冒頭今年度物故された故前田和男、二木清夫、松島寿夫、谷口昭雄の四氏の冥福を祈つて黙祷を捧げました。

会長挨拶となります。

母校の松平理事長先生のご来席と約半世紀にわたる期友の協力に對する感謝を述べた後、次のように心境を語ります。

期友は高齢化し、総会参加も思いのままには進みません。一工夫を考えなければならなくなりました。これからは「おもてなし」ばかりでなく「おもいやり」の気持ちで、お互いの

消息を中心に進めたら如何なものかと感じている次第です。どうぞお互いに元気で生活していられることを祈つております。

続いて理事長のご挨拶。

本中十八回は纏まりのいい会で、今年は特に米寿の年、おめでとうございませ、とお祝いの言葉を述べて頂き、続いて校舎大改築、進学率に向上など学園の目覚ましい発展の様子が語られ、最後に次のように経営の難しさの一端を吐露されました。

私は平成七年から十三年まで校長を務めました。校長としてやりたいたことが一杯ありましたが、なかなか実現できませんでした。そこで外部から教頭を三十年やったという方を校長に迎えました。そのことが今日のよい結果に繋がっています。

こうした席で素直な心情を語られたことに感銘を受けました。

議事に入り

一、 会計報告と監査報告になりますが、担当幹事の山口君が急病で欠席のため不可能になり、後刻文書にてご報告させて頂くことになりました。

二、 同窓会の理事岡田光正君から同窓会の総会の報告。

○本郷学園が進学有名校に仲間入りしたこと。有名私立大学に百名を超す合格者をだしたこと。

○これまでの十八会の研究資料を同窓会の研究室に二画を借りて展示することが了解されたことなど。

三、 解散を問う討議に入ります。

意見がです。解散することが決定し、今後の運営について意見が求められました。多数の様々な意見がだされました。そのすべてが何らかの形で、逢う機会を作りたいということに辿り着くのでした。今度は任意の形で会を作るにしても、誰が世話をするかが問題になります。そこで

今後のことについては現会長に二任することと決まりました。

大塩会長が「皆様の再開を望まれるお気持ちはいよく分かりました。今後のことにつきましては、会計の整理を含め現幹事と相談のうえ決めたいと思います」と話され了解され、議事は終了しました。

記念撮影のあと高橋正明君の司会、仲摩邦夫君の乾杯の音頭で懇談に入り、それぞれが近況を語り合い、最後に恒例となった大原功君の締めで閉会となりました。

これで本中十八会の総会は幕を閉じることになりますが、期友諸氏のこの会に対する哀惜の念をひしひしと感じた一時でした。ご多忙の中最後までご臨席くださいました松平理事長先生に感謝するとともに母校の更なる発展を願いながら報告とさせていただきます。

幹事 大澤善和、大塩宏一郎、岡田光正、佐々木一昭、志田芳久、高橋

正明、松廣翠、宮沢信恵、山口一

志田 記

(写真…前列右から高柳昭三、渡部豊、大塩宏一郎君、松平理事長、岡田光正、島田公雄君。中列右から大原功、今里隆、新井保文、大澤善和、佐々木一昭



君。後列右から馬場隆、西野重義、檜垣順次、新井義雄、高橋正明、松廣翠、仲摩邦夫、宇田川智造、志田芳久君)

1951年〓昭和26年卒業(高校3年生)

『染井26会』の集い

長崎 一

光陰矢の如しというか、本郷学園を卒業して早くも63年。毎年一回同期生との集いを開いている「染井26」の会です。

今年(平成26年)も6月5日(木)同期の平子浅雄君の老舗巢鴨の『大橋屋』で開催しました。当日は生憎の天気でしたが12時30分に12名が参加しました。

はじめに幹事役の山口洋司君の報告で昨年逝去された中島正次郎、大部淳夫両君のご冥福を祈り黙祷をしました。その後本校同窓会の顧問山内英夫君より学園の発展ぶり、卒業生の有名校への進学率の増加ぶりなどの報告を拝聴しました。



やがて今年の再開を祝し乾杯の後酒宴に移りました。戦災で焼かれた校舎の中での授業を受け、青春をたのしんだ仲間達も80の年を少々越えましたが、出席者12名は大いに元氣ぶりを發揮し、ビールに日本酒と酒量もあがる中、一年間の近況など和氣あいあいの話に花が咲き、2時間の宴はまたたくまに過ぎたので

した。

最後にお互いの健康と来年の再会を約束して散会となりました。

1954年 昭和29年卒業(高校6回生)

染井ふくの会

昭和二十九年(一九五四年)卒業の高六回同期会が、多数決で同期会の名称を染井二九会から「染井ふくの会」に改めて以来久しくなりますが、二年ごとの開催に今年もなんとか漕ぎ着けてほっとしました。

開会は午後三時の設定でしたが会場の営業時間は午後五時まで。地下二Fの新講堂など完成したばかりの学園二号館の見学を短時間で済ませ、慌ただしく宴会となりました。しかしそこは歳の功で、今を大事にする気分には大半が転心して、二年前の再会に、互いに元氣を貰った次第です。

今回は駒井隆行氏が卒業以来初めて参加してくれました。そしてご



本人持参のカメラのお蔭で記念写真も残せました。また、渡辺昭義氏の名司会と津久田愛之助氏の会計幹事のお蔭で無事七十歳代最後の同期会が行えました。

次回も元氣で再会することを約して、校歌斉唱のうえ三本締めで会場を後にしました。

平成二十六年五月十八日

記 篠喜三郎

1956年〓昭和31年卒業(高校8回生)

喜寿の会をやりましょう

新澤米次

先日、縁あって巣鴨、駒込をまわってきた。三ノ輪橋から都電荒川線に乗り巣鴨庚申塚で下車。加齢の人達があふれる町、巣鴨商店街を散策した。街並みもほぼ普通りだったが、中には新店舗も目に止まった。

地藏尊で有名な高岩寺に立ち寄り、今日の無事を祈り、健康に感謝した。ある店頭の幟が目に入った。

『長寿の心得。人の世は山坂多い旅の道』と記されていた。振りかえれば、『還暦、古稀、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿、百寿、茶寿(108歳)、皇寿(111歳)。最近では橋寿(84歳)、国寿(92歳)、櫛寿(94歳)も加わりました。念ずれば花ひらく、気を長く、心は丸く、腹立てず、口をつつし

めば命長らえる』と書かれてあった。

人は気力、知力、体力三拍子揃えば恐るるに足らず。目的を持って町歩きを楽しみながら、痴呆症にならない人生を過ごしましょう。

昭和31年卒の高8回生の我々全員は今年3月31日誕生日をもって77歳の喜寿を迎えることになる。そこで同期会幹事4人で相談した結果、次のように決まった。『喜寿の会を実施するか、又は本郷祭(本郷学園の文化祭)に便乗するかを同期会の全員に返答してもらう』ことに。

1960年〓昭和35年卒業(高校12回生)

市倉洋一

「思えば、女房、子供より長い付き合いのみんなに会え、こんなにうれしいことはない」と。そういえば彼は、前回の同期会では「二夜君と共に語る 十年書を読むに勝る」との中国の古い言葉に背中を押されてはせせじた、と満面に笑みを浮かべて語って

いました。

今回の同期会は、平成27年2月21日午後6時から行われました。初めて参加したメンバーもいて、健在を喜びあう光景も見られ、いつもながらの歓談の輪が広がっていました。

会場はJR綾瀬駅近くのカラオケスナックです。乾杯の後は全員が近況を報告しました。思い思いの発言に、時にはエールが送られ、感嘆の声



がもれ、ほほえみが広がる楽しいひとときです。

みなさんの報告が終わると、このところ恒例になっているカラオケタイムになりました。日ごろノドを鍛える面々が、次々とマイクを握って得意の歌を披露していると、あつという間に中締めとなりました。

次回を楽しみに、同期会開催の連絡や会場の手配など、準備にあたってくださった田嶋輝男君をはじめ幹事の方々に感謝しつつ家路につきました。

1961年 昭和36年卒業(高校13回生)

齊藤 毅

今年の同期会(平成26年11月8日)は例年とは少し違い、会場を母校に移し、見学をかねて行いました。昨年(平成25年)は4号館、そして今年(平成26年)は2号館が完成し、見違えるような学舎になっているからです。参加した同期生からは

「我々が通っていた時代とは大きく変わったね!!」、「教室や付属施設等余裕のある校舎になっている」、「しっかり勉強しないと入学できないけれど環境の整った良い施設だ」、「グランドも人工芝ですばらしい。母校が良くなって我々も鼻が高い」など、感嘆することしきりの感想を語っておりました。例年の懇談とは



異なり、母校の発展ぶりを目の当たりにして、今昔の感を禁じ得ない言葉が飛び交う内容となりました。来年の再会を約束して散会しました。

1966年 昭和41年卒業(高校18回生)

小倉義雄

今回は、平成26年11月8日(土)に、格式ある西新井大師正門左横100メートルほどにあり、同級生ご夫妻が経営しているスナック「オハナ」にて開催致しました。

昨年は、恩師の先生方3名を御呼びして巣鴨で開催致しましたが、今回は遠方と言うこともあり、同期生だけ都合がつく17名にて実施しました。新潟や、つくば学園都市などより久々に参加してくれた友達もおり、午後6時〜10時過ぎまで、昨年同様非常に楽しく近況報告やカラオケなどをして時を忘れて過ごすことが出来ました。

これも尽力をして下さいました山

岸夫妻はじめ、お店の方々や友人達に感謝とお礼を申し上げます。

話の中で、昔の本郷での楽しかったこと辛かったこと、また年齢のこともあり、病気や子供・孫のことなど色々話が出来ました。

最後に、70歳近くになりお互い健康には十分気を付けると共に、来年以

降の再開を約し、今後益々の母校の発展、同窓会の発展を祈念しまして、和やかなうちに散会いたしました。

1983年 昭和58年卒業(高校35回生)

松原裕之

前回から早いもので1年が経ち平成26年9月22日(土)、巢鴨の土風炉(とふる)にて恩師の小倉先生を交え、少人数ですが同窓会を行いました。

最近ではSNSにより同期の活躍、近況等がリアルタイムで解りやすくなりましたが、やはり再会すると懐かしく、若き時にしか出来なかつた事(悪事?)などの話で尽きる事は有りませんでした。楽しかった宴は気が付くとあつという間に時間が経ち、二次会では小倉先生のカラオケで更に盛り上がり、とても楽しい一時を過ごす事が出来ました。出席して頂いた皆様と再会を約束し、次回はより多くの出席者を期し家

路へと着きました。

母校もフェンス越しではありますが、サッカーで汗を流す後輩たちや新たになった校舎等を見る事が出来、青春を過ごした巢鴨駅周辺も散策し、あの頃にタイムスリップした様な懐かしい気持ちになりました。

今後本郷学園の卒業生として恥じない様、日々精進していきたいと思えます。有難うございました。



陸上部

西川路健児は永遠です。

1981年 昭と56年卒業（高校33回生）

福島 浩

西川路健児先生の退職を囲む会を、本郷高等学校陸上競技部OB会主催で1月18日に池袋にあるメトロポリタンホテルにて行いました。OB会会長の清水君の号令のもと、上は55歳から下は19歳と140名ものOBが参加してくれました。西川路先生は数日前からインフルエンザに感染してしまい、当日の出席が危ぶまれましたが、そこは今までの強靱な体力と泣く子も黙る「幻の左」でインフルエンザウイルスも蹴散らして参加して頂きました。昭和49年に本郷に就任されて以来、全国に名が轟く数々の名選手を輩出し、中でも大前祐介君は、今でもジュニア日本200mの記録保持者です。老いも若きも学生時代の苦しい練習

の思い出や西川路語録を語り合いながら楽しい時間を過ごしました。参加記念として「本郷健児」のロゴ入りのTシャツを配り、西川路先生から「感謝」のハンドタオルを頂きました。先生、今までお疲れ様でした。そしてこれからも飲みましよう！



サッカー部

FC本郷50の活躍

1972年 昭と47年卒業（高校24回生）

野田悠一

本年で8年目を迎えたサッカー部OB会シニアサッカーチームFC本郷50であります。3年目で1部に昇格しましたが、チームの若返りが図れず2年で2部へ降格し、現在に至っております。本年は本郷40チームから4人のバリバリ50歳の選手が入ってきましたので、1部昇格を目指した1年でしたが、結果は10チーム中5位に甘んじました。このリーグは年間を通してリーグ戦を消化し順位を競います。本年は昇格チャンスでしたが、思うように練習が積めず、ぶつけない結果が得られるわけがありません。本年の反省を踏まえ、次年度は必ず1部昇格のご報告ができる

OB会通信

よう頑張りたいと思います。皆様方の更なるご声援をよろしくお願ひいたします。



柔道部

体育科石井秀明先生の

退職を祝う会

1977年〓昭和52年卒業(高校29回生)

藤井信雄

昭和47年4月より、平成27年3月までの43年間の教員生活に幕をおろした柔道部顧問の石井秀明先生を慕う柔道部卒業生約100名の参加で、石井先生の退職を祝う会が、石井先生夫妻ご家族を招き平成27年3月28日(土)、池袋サンシャイン内「クルーズクルーズ」におきまして、柔道部OB会の主催で盛大に行われました。

会は、厳粛な中での一部、すこしラフな感じの二部と幹事が趣向を凝らしての祝う会となりました。卒業して30年ぶりに会う者、いつも会っている者など、同じ釜の飯を食べた仲間、石井先生を囲んで当時を振り返って語りました。

石井先生を中心にした輪は、これからも末永く続いていくことと思ひます。

結びに、石井先生の新たな旅立ちを祈念するとともに、ご臨席された方々のご健勝をお祈りします。



会員相互の意見と親睦

● 定期総会 日時：6月20日（土）15時。会場：母校1号館2階大会議室

● 総会後の会員懇親会 日時：6月20日（土）17時。会費 3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 第8回「成人の集い」
 〈2013年 平成25年3月卒業（高校65回生）〉卒業2年後に成人となるお祝の同期会 日時：5月23日（土）14時半。会費 1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事懇親会 日時：4月18日（土）17時、10月17日（土）17時。会費 3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭（学園文化祭）同窓会展示室（ブース）開設 開設日：9月19日（土）、20日（日）
 ● 本郷祭同窓会懇親会（サロン）

開催 日時：9月20日（日）15時～17時。会費 3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 還暦の集いなど同期会の開催支援

会誌の発行

● 「銀友」44号 発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰
 ● 卒業生全員に記念品贈呈
 ● 学業優秀な卒業生に「同窓会賞」贈呈

会員名簿の整理

● 名簿管理にともなう新会員（卒業生など）・住所変更の登録、会費納入者・物故者の記録および「銀友」用原稿作成など必要な各種事務処理 業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告

ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載、住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園との懇親会開催
 ● 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会議の開催

● 理事会 日時：4月18日（土）15時、10月17日（土）15時。会場：母校1号館2階中会議室
 ● 運営委員会 日時：4月18日（水）13時、5月23日（土）11時、6月20日（土）13時、7月18日（土）15時、9月5日（土）15時、10月17日（土）13時、11月21日（土）13時、12月19日（土）15時、1月16日（土）15時、2月20日（土）15時、3月19日（土）15時。会場：母校教室
 ● 第9回「成人の集い」
 〈2014年 平成26年3月卒業（高校66回生）〉実行委員

会 Ⅱ 日時… 2月20日(土)
13時。会場…母校教室
● 第11回「成人の集い」
へ2016年Ⅱ平成28年3
月卒業(高校68回生)実行
委員会結成Ⅱ日時…3月15
日(火)13時。会場…母校教
室

— 同窓会からのお願い —

年会費納入にご協力ください

一口…2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。ぜひともご協力ください。

振込取扱票を同封しております。インターネットバンキングを含む銀行振り込みも可能です。その際は会員番号(振込取扱票に印字してあるお名前の下の8桁の数字)か、氏名と卒業年(昭和はS、平成はHと表記してください)のどちらかを明記してください。

銀行口座…三菱UFJ銀行駒込支店

普通口座0821142

本郷学園同窓会

2015年度収支予算案 2015年4月1日～2016年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	2,991,481	総会(1回)、理事会(2回) 開催・資料費	250,000
新卒者同窓会入会金	3,000,000	会誌発行費(15,000部)	2,800,000
同窓会年会費	2,400,000	銀友制作費	
成人の集い	330,000	宛名印刷費	
会費	130,000	ラッピング費	
学校側負担金	200,000	発送費	
本郷祭同窓会懇親会会費	100,000	編集諸経費	
雑収入	100	行事部門	1,800,000
		成人の集い	600,000
		本郷祭同窓会出展費	200,000
		本郷祭同窓会懇親会費	150,000
		同窓会開催支援費(活性化)	50,000
		活躍した生徒への激励費	400,000
		卒業生記念品費	150,000
		卒業生同窓会賞費	40,000
		学園懇親会費	200,000
		父母の会交歓会費	10,000
		会員名簿保守管理費	250,000
		ホ-ムペ-ジ年間契約料	70,000
		運営委員会交通費補助	170,000
		事務費	200,000
		備品費	
		消耗品費	
		資料作成費	
		通信費	
		雑費	
		支出合計	5,540,000
		次年度繰越金	3,281,581
合 計	8,821,581	合 計	8,821,581

● 会員相互の意見と親睦

- 定期総会Ⅱ日時：6月21日（土）15時。会場：母校会議室
- 定期総会後の会員懇親会開催Ⅱ日時：6月21日（土）17時。参加者数：49人。会費2,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内
- 第7回「成人の集い」へ2012年Ⅱ平成24年3月卒業（高校64回生）Ⅱ日時：5月10日（土）14時半。参加者数：135人（64回生111人、理事長・校長・担任教諭など学園関係者9人、同窓会関係者15人）。会費Ⅱ1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内
- 理事会後の理事懇親会開催Ⅱ日時：4月19日（土）17時、参加者数：23人。10月18日（土）17時、参加者数：23人。会費Ⅱ2,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内
- 本郷祭（学園文化祭）同窓

会展示室（ブース）開設Ⅱ開設日：9月20日（土）、21日（日）。会場：母校4号館2階選択教室J

● 本郷祭同窓会懇親会（サロン）

開催Ⅱ日時：9月21日（日）15時。参加者数：53人。会費Ⅱ2,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 会誌の発行

「銀友」43号Ⅱ発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

● 母校の後援

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒32人（9件）を表彰

● 卒業生全員304人に記念品

として印鑑を学園ならびに父母の会と共同で贈呈

● 学業優秀な卒業生8人に「同窓会賞」を贈り表彰

● 会員名簿の整理

名簿管理とそれにとまなう新会員（卒業生など）・住所変更

の登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理Ⅱ業者に委託

● ホームページの管理

同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

● その他の事業

学園との懇親会開催Ⅱ同窓会より12人参加。日時Ⅱ11月26日（水）18時より。会場：「巣鴨スポーツセンター」内。学園側からは理事長、常務理事、校長、副校長、高・中教頭、母校OB教諭（同窓会担当）、事務職員が参加。

● 入学・卒業式、体育祭など学

校行事への役員代表の出席、参観

● 会議の開催

理事会Ⅱ日時：4月19日（土）15時。10月18日（土）15時。会

場：母校会議室

● 運営委員会Ⅱ日時：4月9日（水）および19日（土）14時、5月10日（土）12時半、6月21日（土）13時、7月19日（土）15時、9月6日（土）15時、10月18日（土）13時、11月15日（土）15時、12月20日（土）15時、1月17日（土）15時、2月21日（土）15時、3月14日（土）14時。会場：母校教室および会議室

● 第8回「成人の集い」
 〔2013年〕平成25年3月卒業（高校65回生）実行委員会Ⅱ日時：2月21日（土）13時。会場：母校教室

● 第10回「成人の集い」
 〔2015年〕平成27年3月卒業（高校67回生）実行委員会Ⅱ日時：3月14日（土）13時。会場：母校教室

2014年度収支決算報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	2,349,566	総会（1回）、理事会（2回）開催・資料費	258,939
新卒者同窓会入会金	3,040,000	会誌発行費（15,000部）	2,791,111
同窓会年会費（924人）	2,539,500	銀友制作費	1,572,210
成人の集い	369,103	宛名印刷費	125,116
会費	135,000	ラッピング費	265,260
学園側負担金	234,103	発送費	793,739
本郷祭同窓会懇親会会費	101,000	編集諸経費	34,786
雑収入	113	行事部門	1,707,662
		成人の集い	643,931
		本郷祭同窓会出展費	208,428
		本郷祭同窓会懇親会費	175,000
		同期会開催支援金（活性化）	41,960
		活躍した生徒への激励費	320,000
		卒業生記念品費	152,000
		卒業生同窓会賞費	32,000
		学園懇親会費	134,343
		父母の会交歓会費	0
		会員名簿保守管理費	284,204
		ホームページ年間契約料	68,194
		運営委員会交通費補助	202,000
		事務費	95,691
		備品費	7,224
		消耗品費	21,788
		資料作成費	0
		雑費	66,679
		支出合計	5,407,801
		次年度繰越金	2,991,481
合 計	8,399,282	合 計	8,399,282

預貯金・現金明細

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京UFJ銀行	2,920,041	0	
郵貯銀行	13,696	0	
現金	57,744		
合 計	2,991,481	0	2,991,481

収入の部及び支出の部について、各科目ごとに伝票・領収書等の帳票類を精査したところ、それぞれ適正に誤りなく仕訳けされ、整理されていた。また、期末での現金残高及び金融機関への預金残高も相違なく確認した。したがって、2014年度の収支決算は公正かつ妥当なものであると認め、ここに報告する。

2015年4月12日 監事 木塚順夫 篠喜三郎

2014年度 表彰報告

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒32人(9件)を表彰

- 1.「第1回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会」に東京都代表として出場しベスト16に〈佐藤真吾、春日大輝、辰巳紘奨、富樫和貴、山崎達、是永健志郎、貝塚陸、鶴岡太郎、石田貴一、飯田翔悟、北川浩史、宮本皓平君〉

(12人:7月16日表彰)



- 2.物理チャレンジ2014「第2チャレンジ」に進み銀賞を受賞〈(高校)渡邊伊吹君〉



- 3.化学グランプリ2014「二次選考」に進み銀賞を受賞〈(高校)山田裕己君〉



- 4.日本生物学オリンピック2014「本選」に進み敢闘賞を受賞〈(高校)萩原翠唯那君〉



- 5.第82回日本高等学校選手権水泳競技大会「200m個人メドレー」に出場〈中山瑞稀君〉



(上記4件4人:9月21日表彰)

- 8.日本物理学会第11回Jr.セッションにおいて「蠟燭振動のメカニズムの解明 第2報」の研究テーマで発表〈(高校)三上紘史、小正拓実君(中学)榎本宗一郎君〉



- 6.第69回国民体育大会ラグビーフットボール競技「少年男子」に東京都代表に選抜され出場〈佐藤真吾、春日大輝、山崎達、貝塚陸、海野廣大、海野雄大、鶴岡太郎君〉



(7人:10月30日表彰)

- 7.第12回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2014)に「蠟燭振動は本当に振動しているのか～炎の周囲の気流から振動のメカニズムに迫る～」の研究テーマで応募し佳作に入賞〈三上紘史、小正拓実君〉

(2人:1月15日表彰)

- 9.日本物理学会第11回Jr.セッションにおいて「二つ穴の空気砲から出る渦輪について」の研究テーマで発表〈(高校)鷹取夏輝、園悠希君(中学)白居幸希、岩田純弥君〉

(8.9.の2件7人:2月21日表彰=白居、岩田君は欠席)



2014年度定期総会報告

山際幸雄 高校18回生(1965年=昭和41年卒業)

日時：2014年(平成26年)
6月21日(土)午後3時
会場：本郷学園6号館2階会議室
出席者：47人

司会の梶徳治理事(1968年卒業)高校20回生)が開会を告げ、はじめに同窓会の物故者に黙祷をささげる。

続く来賓あいさつでは、所用のため欠席の松平頼武理事長、北原福二校長に代わって宮沢正喜副校長(本郷の同窓生)1966年卒業)高校18回生)が学園の近況を報告した。とくに、学園創立92周年を迎えたなかで、創立90周年記念事業の新2号館が完成するなど、生徒たちの学習環境が飛躍的に整備されたことを強調した。また、大学受験においては、今年は早稲田大学、慶応大学にそれぞれ100人以上が合格し伸び率日本一と報道されるなど、着実な向上ぶりを紹介した。さらに、創立100周年にあたっては、同窓会の協力も得て記念誌を刊行したいと語った。

そのあと、南谷修同窓会会長(1956年卒業)高校8回生)があいさつに立ち、まず本年、本郷中学校の入学試験日を、他の実力校と同じ2月1日に実施したことを報告し、今後の継続・伸展に期待を寄せた。一方、同窓会が独自に行っている全国レベルの大会に出場した生徒たちへの表彰について、昨年度は9件58人を数えるなかで、文化系が目立ったことを示し、文武両道と真剣に取り組む生徒たちの学園生活の端を紹介した。また、本郷出身者による「本郷医師の会」、「本郷東大会」が発足するなど、同窓生の自発的な連帯の動きを歓迎し、同窓会へのさらなる協力を訴えた。

引き続き議事に入る。

会則により議長を南谷会長が務め、議長の名指により小室能広副会長(1956年卒業)高校8回生)、山際幸雄理事(1966年卒業)高校18回生)が書記を務め、署名人に赤井健郎理事(1970年卒業)高校22回生)、野口貴洋理事(1983年卒業)高校35回生)を指名した。

第1号議案 理事・役員人事の件

議長から、別紙総会資料1頁「本郷学園同窓会役員(案)」(銀友)43号38頁掲載)が提案され、秋元幹夫副会長(1955年卒業)高校7回生)が説明し、5人の理事就任を全会一致で承認した。

第2号議案 2013年度事業報告の件

議長から、別紙総会資料2頁(2013年度事業報告)「(銀友)43号34頁掲載)が提案され、秋元幹夫副会長が各事業の概要を報告し、さらに個別の事業について、担当役員が詳細に報告した。

第3号議案 2013年度収支決算の件

議長から、別紙総会資料5頁の「2013年度収支決算報告書」(「銀友」43号35頁掲載)が提案され、収支決算について、斉藤毅副会長(1961年卒業)高校13回生)が報告した。

なお、篠喜三郎監事(1954年卒業)高校6回生)が4月9日(土)に行った2013年度会計監査について「会計処理は公正かつ妥当なものである」と報告し、これを了承した。

ここで第2号、第3号議案を諮り、いずれも全会一致で承認した。

第4号議案 2014年度事業計画(案)の件

議長から、別紙総会資料6頁の「2014年度事業計画案」(「銀友」43号32頁掲載)が提案され、秋元副会長が

説明した。

第5号議案 2014年度収支予算(案)の件
議長から、別紙総会資料7頁の「2014年度収支予算案」(「銀友」43号33頁掲載)が提案され、斉藤副会長が説明した。

ここで第4、第5号議案を諮り、ともに全会一致で承認した。

第6号議案 その他

昨年、本郷の同窓生で結成された「本郷医師の会」会長の岡本明久さん(1988年卒業)高校40回生)、同幹事長の杉下和行さん(1996年卒業)高校48回生)が自己紹介をかかわって第1回懇親会の模様を報告した。

さらに先の第2次世界大戦で兵役を経験した同級生の大先輩の戦争体験聞き取りを進める田口雄飛さん(2013年卒業)高校65回生)は「できれば学園の黎明期からの先輩たちの歴史をまとめてみたい」と、その動機などを語った。

議事終了後、出席者からの発言が懇談的であり、司会の梶理事が総会の閉会を宣言した。

この議事を明確にするため、別紙総会資料を添付して本議事録を作成し、議長らに議事録署名人が下に署名する。

2014年6月21日 本郷学園同窓会

議長 南谷 修

署名人 赤井 健郎

署名人 野口 貴洋

2014年度 本郷祭報告

立入健司

1974年 昭和49年卒業 (高校26回生)

2014年度の本郷祭は「つぶやくな、叫ぼうじゃねえか!」のスローガンを掲げ、9月20日(土)、21日(日)の両日開催されました。

グラウンドや体育館では運動部の招待試合、各教室ではクラスやクラブの展示やイベント、そして模擬店や学校の説明会にたくさんの方々にお越しい



ただきました。

2日間という限られた時間の中でスローガンのように本郷生たちの熱い思いの叫びが心に響いてくるようなパワーあふれる本郷祭でした。

同窓会ブースも4号館2階の教室をお借りして、多数の卒業アルバムや本校の歴史資料等を展示したほか、社会で活躍する卒業生や「成人に集い」の模様、全国レベルで活躍した生徒たちをパネルで紹介させていただきました。

21日午後には、三菱養和会スポーツセンター「レストランパルテール」において、同窓会懇親会を開催し、先輩から新卒業生まで、たくさんの方の卒業生にご参加いただき、新旧の交流ができました。

今後も、この懇親会を同期生や部活OB会等の集まりの場としてご活用いただければ、幸いです。



本郷学園同窓会役員(案)

任期：任期：2018年度総会まで

役職	氏名	卒業年	卒業回期	役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長					中田守喜	1969 (昭和44)年	高校21
	松平頼武	(学園理事長)			加納耕助	1970 (昭和45)年	高校22
会長					染谷幸雄	1970 (昭和45)年	高校22
	南谷 修	1956 (昭和31)年	高校8		田中良一	1972 (昭和47)年	高校24
副会長					中嶋健至	1973 (昭和48)年	高校25
	秋元幹夫	1955 (昭和30)年	高校7		石井聖一	1973 (昭和48)年	高校25
	小室能広	1956 (昭和31)年	高校8		平野隆之	1974 (昭和49)年	高校26
	井上栄三郎	1958 (昭和33)年	高校10		立石嘉男	1976 (昭和51)年	高校28
	市倉洋一	1960 (昭和35)年	高校12		矢作 明	1979 (昭和54)年	高校31
	斉藤 毅	1961 (昭和36)年	高校13		遠藤千秋	1981 (昭和56)年	高校33
監事					山本一博	1982 (昭和57)年	高校34
	木塚順夫	1956 (昭和31)年	高校8		竹野谷茂	1983 (昭和58)年	高校35
	熊木宏治	1960 (昭和35)年	高校12		小池武次	1983 (昭和58)年	高校35
顧問					佐々木晋一	1985 (昭和60)年	高校37
	北原福二	(学校長)			佐藤和明	1987 (昭和62)年	高校39
	山内英夫	1951 (昭和26)年	高校3		岡本明久	1988 (昭和63)年	高校40
相談役					移川真男	1990 (平成2)年	高校42
	宮本幸雄	1942 (昭和17)年	中学15		下村大樹	1993 (平成5)年	高校45
	玉川 昭	1945 (昭和20)年	中学19		野村竜太	1994 (平成6)年	高校46
	植松隆吉	1951 (昭和26)年	高校3		新野文隆	1994 (平成6)年	高校46
運営委員					庄野直哉	1995 (平成7)年	高校47
	新澤米次	1956 (昭和31)年	高校8		杉下和行	1996 (平成8)年	高校48
	山際幸雄	1966 (昭和41)年	高校18		荻山温夫	2004 (平成16)年	高校56
	梶 徳治	1968 (昭和43)年	高校20		平 雷太	2004 (平成16)年	高校56
	赤井健郎	1970 (昭和45)年	高校22		池田貴生	2005 (平成17)年	高校57
	野田悠二	1972 (昭和47)年	高校24		金尾晋一郎	2006 (平成18)年	高校58
	千野邦雄	1973 (昭和48)年	高校25		黒部直樹	2006 (平成18)年	高校58
	立入健司	1974 (昭和49)年	高校26		御子柴怜志	2006 (平成18)年	高校58
	米澤 潤	1980 (昭和55)年	高校32		岡本健太郎	2007 (平成19)年	高校59
	野口貴洋	1983 (昭和58)年	高校35		高宮成将	2007 (平成19)年	高校59
理事					田中大貴	2007 (平成19)年	高校59
	高野正美	1944 (昭和19)年	中学17		石田 武	2008 (平成20)年	高校60
	岡田光正	1945 (昭和20)年	中学18		塩野智也	2008 (平成20)年	高校60
	野木惣市	1945 (昭和20)年	中学19		西村友吾	2008 (平成20)年	高校60
	田島利男	1947 (昭和22)年	中学20		宮島大貴	2009 (平成21)年	高校61
	望月敏郎	1951 (昭和26)年	高校3		佐藤明彦	2009 (平成21)年	高校61
	地曳秀雄	1951 (昭和26)年	高校3		柳田 将	2009 (平成21)年	高校61
	津久田愛之助	1954 (昭和29)年	高校6		松井洋輔	2009 (平成21)年	高校61
	渡辺昭義	1954 (昭和29)年	高校6		吾郷友紀	2010 (平成22)年	高校62
	大西美代智	1954 (昭和29)年	高校6		山田 駿	2010 (平成22)年	高校62
	岡本信也	1958 (昭和33)年	高校10		若林 司	2010 (平成22)年	高校62
	上本清治	1958 (昭和33)年	高校10		植草太郎	2011 (平成23)年	高校63
	久保國男	1960 (昭和35)年	高校12		佐藤祐介	2011 (平成23)年	高校63
	山本達雄	1960 (昭和35)年	高校12		関田宗範	2011 (平成23)年	高校63
	竹村義教	1960 (昭和35)年	高校12		宇賀直道	2012 (平成24)年	高校64
	阿出川信夫	1961 (昭和36)年	高校13		手島秀則	2012 (平成24)年	高校64
	池田雅彦	1962 (昭和37)年	高校14		中村建介	2012 (平成24)年	高校64
	高田隆義	1963 (昭和38)年	高校15		北野史浩	2013 (平成25)年	高校65
	杉山勝正	1963 (昭和38)年	高校15		熊谷太輝	2013 (平成25)年	高校65
	小倉義雄	1966 (昭和41)年	高校18		白石慎太郎	2013 (平成25)年	高校65
	関塚正治	1968 (昭和43)年	高校20		田口雄飛	2013 (平成25)年	高校65
	野水国一	1968 (昭和43)年	高校20		畑本麻斗	2013 (平成25)年	高校65
	富岡俊明	1969 (昭和44)年	高校21				

学園だより

本郷高校 2015 年大学入試合格実績

大学名	計	現役
国公立・大学校		
東京	9	7
京都	4	2
一橋	7	6
東京工業	10	8
北海道	5	3
東北	5	5
筑波	5	4
千葉	6	5
東京学芸	2	1
東京農工	3	3
東京医科歯科	1	1
電気通信	2	2
首都大学東京	10	8
横浜市立	2	2
信州	2	
鹿児島	1	1
宇都宮	1	1
高知	1	
大分	1	
名古屋工業	1	1
北見工業	1	1
横浜国立	1	1
埼玉	2	
防衛	4	3
防衛医科	1	
気象	1	

大学名	計	現役
私立		
早稲田	165	143
慶応義塾	93	75
上智	57	50
東京理科	106	71
明治	154	127
青山学院	7	4
立教	38	31
中央	44	34
法政	46	30
学習院	17	9
成蹊	6	2
成城	5	2
明治学院	13	7
日本	80	56
専修	6	5
東洋	12	7
駒澤	19	14
獨協	7	6
國學院	4	2
武蔵	3	2
神奈川	6	6
玉川	2	2
大東文化	1	1
亜細亜	1	1
帝京	2	1
国士舘	2	2
拓殖	1	1
国際基督教	2	2
東京都市	6	3
芝浦工業	35	24
関西学院	3	3
北里	8	5
杏林	1	
近畿	1	1
工学院	7	6

大学名	計	現役
私立		
埼玉医科	2	
産業能率	2	2
自治医科	1	1
順天堂	3	1
尚美学園	1	1
昭和	3	3
白梅学園	1	1
聖マリアンナ医科	1	
大正	1	1
千葉工業	15	15
帝京平成	1	1
東京医科	2	1
東京工科	4	3
東京工芸	1	1
東京国際	1	1
東京歯科	1	
東京慈恵会医科	2	1
東京電機	13	9
東京農業	13	13
東邦	9	6
獨協医科	1	
日本医科	3	2
日本薬科	1	1
星薬科	3	2
武蔵野	3	1
明治薬科	2	2
明星	3	3
目白	1	1
横浜薬科	1	
立正	1	1
立命館	5	5
日本映画	1	
東京経済	1	
多摩美術	1	
武蔵野美術	1	

2014 年度退職教職員

副校長 宮沢 正喜
 保健体育科教諭 石井 秀明
 保健体育科教諭 西川路健児

(2015年4月7日現在)

本郷学園同窓会会則

◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名 副会長 若干名 理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。

二名 名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。

三 顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。

四 相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、副会長間において定める順位により会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることができる。
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることとはできない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事及び任期》

第十条 役員の仕事は三年とする。ただし再任は妨げない。

二 補充により選出された役員の仕事は三年間の当該任期の残任期とする。

三 前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の仕事は出日までは、なお、その仕事を行う。

四 会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会が行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二 会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
- (3) 理事の承認並びに監事の選出
- (4) 事業報告及び収支決算の承認
- (5) その他本会の運営に関する重要事項

二 会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくはは理事の過半数の請求により開催する。

二 理事会は次の事項を審議し議決する。

- (1) 会長の選出
- (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
- (3) 総会の議決した事項の執行
- (4) 総会に付議すべき事項
- (5) 運営委員会より付議された事項
- (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

二 運営委員会は会長の招集によって開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第一項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事業は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二 総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可
否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

- (1) 入会金
- (2) 会員の年会費
- (3) 利息収入
- (4) 寄付金品

二 いったん納入した金品は一切返還しない。

第二十三条 会員は年会費を二口弐千円として二口以上を毎年納付するものとする。

二 卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付 則 ◆

本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第二項については平成二十三年度より実施する。

以上

会費納入者一覧

吉川昭二	柳田敏	増山恵一	長谷川実	沼尻卓	中村博	下川薫	坂寄吉昭	木下茂男	金子敏雄	岡田光雄	石原崇光	有馬壯一郎	高19 秋葉和秀	高尾正照	矢吹興平	山際幸雄	村井文一	三浦淳二	宮沢正喜	根木輝久	田原克人	丹波信三郎	舟波和夫	高18 石津俊一	浅井後一	馬場修男	野田祐二	中村憲夫	辻内健志	佐藤仁	池田明	高17 伊井主計	小池昭久	小原治男	高16 上島敏幸	高田隆義				
山口陽通	早川盛男	野田優明	西正規	豊田康徳	谷口裕治	鈴木英世	杉山利博	杉山敏行	黒杉青博	小松健介	遠藤文章	佐久間道雄	高21 荒井章登	安藤一雄	矢代順一	山下定男	小菅邦雄	宮田知男	森田英一	宮田英一	古川和夫	古川要司	西原董	中野正博	菅野善男	中村晴男	戸張友晴	津田隆	津田秀松	関塚正志	酒井孝一	酒井孝一	高藤盛泰	小林基展	後藤文雄	梶徳治	大野英治	内山正敏	飯沼誠次	吉倉幸信
戸部庄次	立入健司	相模明男	稲田俊和	山口登	長谷川幸雄	中田宗喜	千野邦雄	田島成一	佐野養一	坂井成一	春日貞男	高25 春日貞男	三浦哲也	松島和己	野田悠二	中村敬司	田中良一	進藤久幸	澤村時夫	掛川晃行	吉沢清	関田晃	湯本茂	菅野邦彦	菅野照男	砂治照男	神山隆一	太田治	押田清和	森田茂	森田幸雄	須藤春雄	瀬賀春雄	小池義明	蔵田昌明	工藤勝彦	久保田辰雄	加納耕助	岡村光雄	赤井健郎
清水一郎	斎藤政嗣	小池治	吉田剛次	山畑邦裕	橋本尚弘	杉林正敏	富永浩伸	富永浩伸	川崎明秀	川崎雅弘	高31 川崎雅弘	高30 田中和男	菅野弘一	小林幹生	香川耕二	飯泉影裕	泉昇一	石塚実	磯ヶ谷満夫	伊東史郎	山本和弘	山本伸彦	萩原宏次	田中実	須藤博忠	須藤幸彦	須崎博賢	小林博賢	亀山隆	原田俊幸	高橋伸一	河野哲史	越智充晃	溝口清人	堀義一	花島良晴	庭野毅	中田久人		
小池武次	末吉俊洋	本庄恭一	茂呂尚元	岩崎弥一	諸石貴生	山崎剛	宮崎雄一	林俊明	高橋隆幸	小林隆一郎	高34 小林隆一郎	明妻正道	秋月康夫	若月隆	吉田秀樹	吉田浩久	福島浩	西洋一	並木成中	中野一美	戸谷庸克	滝本康雄	多治見一郎	高橋秀明	杉田勝康	斎藤賢一	斎藤卓	小口邦夫	遠藤千秋	宇賀神茂	宇賀神茂	磯田浩之	米沢潤	三井宏樹	原哲夫	永堀義秀	竹内博輝			
渡鹿島努	上原清	清水伸樹	梶晋介	古賀直樹	野野健一	高木厚	石本厚	山田史朗	岩城俊一	柴山巖	高38 柴山巖	川田隆	矢島俊之	城沢智哉	横川高樹	秋山竹也	山口和彦	小澤秀昭	根岸延存	大熊勝雄	小野寺和彦	荒井康雄	加藤雅彦	直井正人	増智智徳	田邊賢一	杉本淳	萩谷功一	山田晴一	下島豊	加藤吉郎	美谷島総	出雲博	高36 出雲博	増岡武宏	野口貴洋	伊豆和俊	竹野谷茂		
藤田清志	野口拓	今井史	木村秀樹	吉田永弘	中田弘行	戸塚太一	萩原孝明	石本健太郎	高39 石本健太郎	高43 菅川吹雪	高40 菅川吹雪	藤田惠輔	高山慎	大澤清	田村裕一	三村淳信	本井利生	本井利生	花田憲彦	田中憲治	林慎也	高42 林慎也	川島雅行	井上貴行	高瀬知博	長谷淳司	紙谷淳一郎	渡邊雄一	関口直人	小松慎太郎	高41 小松慎太郎	岡本明久	重川孝志	坂上純一朗	矢嶋実人	春日真人				

- 高44 北村 影浩 久保村 豐 中村 雅知 守部 直文 藤田 啓 淺野 裕之 津田 達広 川上 慎太郎 高45 赤田 正樹 青木 和久 遊間 英孝 近藤 正徳 高46 野村 竜太 山田 洋一 高47 則松 洋一 山崎 陽一 大森 慎太郎 香取 範充 佐藤 良 林 幹大 高48 稲生 雄一郎 増田 健次 高49 堀 洋吾 林 誠吾 安井 督 上野 光信 種村 昌之 中溝 健晴 高50 豊田 浩成 宇田川 太 御園生 悟 新井 光介 高51 天野 秀忠 梶野 貴経 佐藤 英明 新井 亮輔 中田 孝宏 中村 元宏 斉藤 国彦 滝澤 一晴 山本 健太郎 高44 乙丸 貴史 染谷 快典 若西 良介 高52 高橋 智久 塩畑 太一 藤本 耕平 向井 崇平 津田 常太 千田 昌宏 坂本 泰宏 坂田 憲和 高45 高53 伊田 健一郎 北島 康介 中井 秀星 今井 秀昌 福森 洋輔 奥山 雄太 青藤 秀雄 大塚 憲 小藤 寛之 中村 旭 長澤 桂 後藤 泰治 深山 敬大 根岸 達哉 高54 栗野 耕平 石澤 栗山 西島 章夫 五代 隆史 高橋 祐磨 大澤 思朗 池田 達彦 江間 裕樹 新井 秀昭 大森 孝人 齋木 孝人 小泉 孝人 土橋 篤仁 堀越 周 伊藤 亮 戸澤 信太郎 高55 小泉 信吾 正木 健彦 大河内 伸刚 高55 新村 佳央 佐藤 裕明 塚田 匡 大塚 真弘 高56 高井 俊宏 殿川 洋右 船渡川 哲 菅原 一輝 高小 真樹 卯坂 潤一郎 後藤 隆徳 千葉 雄一 長谷川 裕之 山本 崇史 木内 健義 高57 栗田 直亮 谷口 遼 北森 雅雄 宮本 英明 安藤 裕哉 安藤 裕哉 高58 横手 啓造 宮川 元 石村 賢 松島 和 池田 一樹 米山 俊輔 秋本 悠輔 高59 宇田川 翔平 小泉 隼人 秦 慧州 高60 水谷 大志 山本 勝章 森井 康博 大河内 伸刚 林 輪太郎 松本 康佑 宇山 宗孝 高61 宇山 宗孝 高62 高63 高64 高65 高66

鎌倉にて

1969年 昭和44年卒業（高校21回生）
中田守喜

平成26年11月25日（火）。小雨。この日、本郷学園を退職した先生グループが、前夜は由比ヶ浜に泊まり、鎌倉のお寺めぐりをし、朝食を有名そば処「こ寿々」でとりました。私が三浦先生からの連絡で手配した同期の小堺孝雄君の店です。

一行9名に小堺君と私に加わりかなり長時間の昼食会となりました。美味な酒、肴と、そしてそばとくれば話は弾み、酒も進みます。小堺君が落語調に語る本郷を卒業してから現在までの奔放な遍歴話には感心させられ、時には大笑いになりました。

先生方の本郷愛あふれる思い、出話しや同僚の先生のものマネ、こぼれ話し続出で、1秒と間のあかない楽しい会話が続きました。気がつけば鎌倉の町に明かりが灯る時間でした。再会を約してシャ

ンシャンシャンとおひらきとなり、帰路につきました。
（写真は中央に板垣先生、そして左から大宮、三浦、阿出川、角谷、大浦、進藤、小倉先生、小堺君、私、池田先生。場所・若宮大路段葛「こ寿々」鎌倉市小町2,13,4）



- 回期等 不明者
- タケザワ タダシ
- シンジュンリ
- ナカムラ ノリオ
- スズキ ヤスヨシ
- スズキ サダオ
- タナカ クニオ
- フジイ ノブオ
- フクダ ユキタカ
- ワケオ (50,60)
- イガラシ モトユキ
- ナカムラ ホムレ
- ヒノイシ ヒロユキ
- ナカムラ マコト

訃報

謹んでご冥福をお祈り致します
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

- 中 2 岡田 孝一
- 中 3 高市 章
- 中 5 徳田 雅彦
- 中 11 中野 武正
- 中 11 水谷 郁夫
- 中 13 中村 允
- 中 17 小川 清
- 中 19 菊田 勇
- 中 21 板倉 厚
- 高 3 大部 淳夫
- 高 3 佐々木 三郎
- 高 3 中島 正次郎
- 高 12 辻 正伯
- 高 53 石田 将敏

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXでご一報いただければ幸いです。
FAX 03-3917-0007

学年別合計	911人
学年不明納入者	13人
総数	924人

銀友

第44号 2015年5月1日発行 本郷学園同窓会

本郷学園校歌

むかしは植樹の名どころ染井
とりわけ紅葉の錦に知らる
今は学園ここに開けて
国の柱の苗木を育つ
ああわれら 誇りの本郷学園
ああ柱苗木の青年われら
つとめば未来に何えせざらむ
さらば固めよ処世のもとい
こころは剛毅に身は強健に
ああわれら 誇りの本郷学園

作詩 坪内逍遙
作曲 信時 潔



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に
-9月19日(土)、20日(日)-

同窓会展示室を開設(当日のプログラムでご案内します)

《当日は同期会・クラス会・OB会などの集合場所にご利用ください》

同窓会懇親会を開催 9月20日(日) 15:00~17:00

会場: 三菱養和会巢鴨スポーツセンター2階「レストランパルテール」

会費: 3,000円

※ 展示室で利用券を受け取りご参集ください